

令和3年度 文部科学省委託
教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業
(グローバル化に対応した外国語教育推進事業)
慶應義塾大学 成果資料集

令和4年3月

はじめに

本冊子は、文部科学省の委託事業として慶應義塾大学が実施した令和3年度「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」の研究成果を纏めたものです。

「平成29年度外国語教育強化地域拠点事業」、「平成30年度グローバル化に対応した外国語教育推進事業」、「令和元年度グローバル化に対応した外国語教育推進事業」同様、慶應義塾大学外国語教育研究センター研究推進委員会が受け皿となり、東京都・神奈川県・埼玉県で様々な言語を担当する中学・高校・大学の教員の協同によって事業を進めました。

本冊子の構成は以下の通りです。まず冒頭に申請時の事業実施計画書と、本事業で作成した指導案様式を置き、続いてドイツ語・韓国語・フランス語・中国語・英語の順で、各拠点校における研究担当者の指導案を配置した後、さらにワークショップで配布した資料を収録しています。

なお、令和2年度には慶應義塾大学外国語教育研究センターの独自事業として「令和2年度グローバル化に対応した外国語教育推進事業」も実施し、その成果は「慶應義塾大学外国語教育センター研究プロジェクト『グローバル化に対応した外国語教育推進事業』における高大協働による取り組みとその実践例」（縣由衣子・境一三、『慶應義塾外国語教育研究』第17号、2021年、pp.127-154）、および「外国語教育における三つの資質・能力とパフォーマンス評価——慶應義塾大学外国語教育センター研究プロジェクト『グローバル化に対応した外国語教育推進事業』」（山下一夫・山下誠・吉川龍生、『慶應義塾外国語教育研究』第17号、2021年、pp.175-200）として纏められています。ここで述べた授業設計に対する考え方は、本事業の出発点ともなっているので、併せて参照いただけると幸いです。

教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業
（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）研究主任
慶應義塾大学工学部外国語総合教育教室教授（中国語）

山下 一夫

令和4年3月

(様式1-1)

令和 3年 5月 24日

事業実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 学校法人慶應義塾
所 在 地 東京都港区三田2丁目15-45
代 表 者 職 ・ 氏 名 理事長・長谷山 彰

令和3年度「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」における事業実施計画書を提出します。

1. 事業の実施期間

契約締結日 ～ 令和4年3月24日

2. 研究拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	かりたすじょしちゅうがくこうとうがっこう	ふりがな	はぎわら ちかこ
学校名	カリタス女子中学高等学校	校長名	萩原 千加子
ふりがな	かながわけんりつよこはますいらんこうとうがっこう (ていじせいのかてい)	ふりがな	しのづか ひろやす
学校名	神奈川県立横浜翠嵐高等学校(定時制の課程)	校長名	篠塚 弘康
ふりがな	よこはましりつみなとそうごうこうとうがっこう	ふりがな	みやむら ひろふみ
学校名	横浜市立みなと総合高等学校	校長名	宮村 浩文
ふりがな	とうきょうとりつおめそうごうこうとうがっこう	ふりがな	すずき しんや
学校名	東京都立青梅総合高等学校	校長名	鈴木 信也
ふりがな	かながわけんりつふじさわそうごうこうとうがっこう	ふりがな	いちかわ まさと
学校名	神奈川県立藤沢総合高等学校	校長名	市川 誠人
ふりがな	さいたまけんりついながくえんそうごうこうとうがっこう	ふりがな	ますぶち のりとし
学校名	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	校長名	増淵 則敏

3. 研究内容

(1) 研究課題

英語以外の多様な外国語科目の教育を担う教師の資質向上の支援
——育成すべき資質・能力の三つの柱、パフォーマンス評価、逆向き設計による授業づくり

(2) 研究の概要

本事業は、中等教育において英語以外の多様な外国語の教育を担う教師の資質向上を、以下の内容によって支援を行うものである。

1. 新学習指導要領の議論を取り入れた年間・単元指導案の策定と、それに基づく授業実践の方法の研究。持続可能性を担保するために、学校や年度によって内容が異なる個別の授業の議論を踏まえつつ、指導案フォーマットを元にした授業設計方法に重点を置く。そのために以前開発したフォーマットの改善を行い、英語教育研究の成果も採り入れるとともに、複言語・複文化主義の視点も盛り込み、国語や我が国の文化に対する理解を深めることに資する内容を目指す。
2. 1を元に研究拠点校の研究担当者が授業の設計・実践を行い、その結果を1にもフィードバックさせる。
3. 広く一般の教員を対象としたワークショップを開催し、1・2によって得られた成果を共有するとともに、開発した具体的な指導資料や教材の公開も行う。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

高等学校における英語以外の外国語教育は、一般にそれぞれの言語の母国における言語教育や、当該言語の教育・研究を行う国内の大学で開発された教授法を基礎としている傾向にある。しかしそれらは必ずしも日本語母語話者には適さない当該言語内部での研究蓄積の反映であったり、あるいは成人学習者を念頭に開発されたものであったりすることが多い。

そのため、それらを日本の中高等教育の文脈で読み替え、また学校教育の枠組みに落とし込む必要があり、その際には「英語以外の外国語」は「英語に準じて行う」とする学習指導要領の指針に基づくことになる。平成29・30年改訂のいわゆる新学習指導要領では、「聞く」「読む」「書く」「話す（やり取り）」「話す（発表）」の「5領域」が意識され、また「主体的、対話的で深い学び」「育成すべき資質・能力の三つの柱」といった教科横断的な方針が打ち出されており、革新的な内容も含んでいる一方で、これを英語以外の多様な外国語の教育でどう実現させていくかを検討する必要もある。

ところが英語以外の外国語を担当する教師は、一つの学校の中では兼任講師を含めて数名しかいないことが多く、また教授方法が言語ごとに「閉じられている」傾向にあるため、教師は上記のような作業をいわば「孤立」した状態で行う状況に陥りがちとなる。

文部科学省委託事業として実施した平成29年度外国語教育強化拠点事業、平成30年度・令和元年度グローバル化に対応した外国語教育推進事業、さらに令和2年度慶應義塾大学外国語教育センター事業独自事業においては、新学習指導要領と、近年の言語教育研究において得られた知見をもとに作成された『外国語学習のめやす』で示された目標としてのコミュニケーション能力指標、外国語教育の方法としてのカリキュラムのバックワードデザイン、評価の方法としてのルーブリックの作り方などに依拠しながら、中等教育における汎用性を確保した初修外国語科目の指導・評価方法を開発し、研究拠点校でこれを実施するとともに、一般への報告会なども開催してその成果の公表を行った。

そこで本事業においては、上記事業で作成した指導案を元に、より一般化させた教授法を開発して研究拠点校で実践するとともに、広く一般に開放したワークショップを開催し、具体的な指

導資料を広く公開することで、英語以外の多様な外国語科目の教育を担う教師の資質向上の支援を行う。

②研究仮説

1. 高等学校において英語以外の外国語を担当する教師は、通常は「孤立」した状態で中等教育における授業実践を構築していかなければならないが、プロジェクトとして拠点校の担当者やワークショップ参加者に支援を行うことで、そうした負担を軽減させ、さらに学習者の資質能力を向上させてゆくことが可能である。
2. 小学校における外国語活動や、中学校における教科「英語」においてこれまでに積み上げられている実践例、大学における外国語教育研究は、発達段階の差などを勘案することにより、中・高等学校における初習外国語科目の指導案と評価計画作成にあたって参考とすることが可能である。
3. 中・高等学校における初習外国語教育においても、CAN-DO リストを有効に活用することにより、限られた言語材料を駆使して日常的・社会的な話題、また社会や世界にかかわる話題や課題について、5領域の力を統合したパフォーマンス課題を設定することが可能である。
4. 逆向き設計にもとづいてパフォーマンス評価を導入すれことにより、限られた時間数の初習外国語であっても、学習指導要領がめざす資質・能力の三つの柱を育成することが可能である。
5. 高等教育・中等教育における複数言語の関係者が協働することにより、個別言語の事情を超えて、外国語教育としての汎用性を確保した指導案と評価計画の方法の開発が可能である。
6. 様々な地域の様々な学校を研究拠点校とし、また本プロジェクトのメンバーおよび拡大プロジェクトメンバーがこれまでの成果を共有する研修や議論を行うことにより、より一層の汎用性の確保が可能である。
7. 新型コロナウイルスの流行に伴い、一部の授業はオンラインとなる可能性もあるが、パフォーマンス評価を中心とした授業設計自体は対面授業と同様に実施が可能である。
8. 7についてはオンライン特有の設計も必要となり得るが、むしろそのために ICT 機器の活用のあり方についてノウハウを蓄積することも可能である。

③研究成果の評価方法

拠点校での授業実践においては生徒へのアンケート調査、および会合ごとに行う教師へのインタビューによって、またワークショップや Web 公開教材や指導事例については参加者・閲覧者に対するアンケート調査によって、教師の資質向上のために行った支援の成果について評価を行う。

(5) 研究計画

1. 教員用の指導案様式の開発

前年までに開発した、英語以外の外国語を担当する教員に提供するフォーマットである指導案様式について、さらに改良を行う。その際、CEFR で提示されている Can-do Statements を強く意識し、各言語に共通した評価指標と、各言語に特有な指標の両面から研究を進めることとする。また、特に評価に関する項目について検討を深めるとともに、外国語科の目標に「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉える」と記述されていることを勘

案し、これまでの単元案指導様式にある、資質能力の三つの柱別の目標に加えて、「社会と文化の気づきのポイント」というオリジナルの項目を改善し、教員・生徒ともにやはり CEFR で提示されている複言語・複文化への「気づき」につながれば、我が国の文化に対する理解を深めることにも資するものとなり得ると考える。

2. 指導案様式に基づいた指導計画の策定

研究拠点校の授業担当者は、運営指導委員の助言やグループ全体での討議も経て、指導案様式に基づいて授業設計を行う。授業設計だけを考えるのではなく、フォーマットに基づいて実際の授業を組み立てる方法そのものを身につけることによって、一過性のものではない、持続可能なあり方とすることができる。

3. グループメンバーの研修

1 および 2 の参考ともするために、外部講師を呼んで研修を行う。特に、新学習指導要領で提示されている「育成すべき資質・能力の三つの柱」、新学習指導要領における指導と評価の一体化などについてより深い理解を得ることをめざす。

4. 授業実践と公開授業の相互参観

研究拠点校の研究担当者は、作成した単元指導案に基づいて、パフォーマンス課題を実施し、またそれをループリックで評価する授業実践を行う。またその中から対面ないしオンラインで公開授業を設定し、プロジェクトメンバーにより相互参観を実施した後、研究協議で内実のあるフィードバックを行う。1~4 によって、研究拠点校の研究担当者を対象とした、英語以外の多様な外国語科目の教育を担う教師の資質向上の支援を行う。

5. ワークショップの開催

1~4 の内容に基づいて、中等教育において外国語教育を担当する教員を中心に開放したワークショップを実施し、これによって広く一般を対象とした英語以外の多様な外国語科目の教育を担う教師の資質向上の支援を行う。またオンラインないしハイブリッドで行うことで、遠隔地からの参加も可能にするとともに、多様な外国語教育を担当する教師の研修や実践交流の機会の創出も行う。なお実施にあたっては、研究指定校のある東京・神奈川・埼玉などの自治体の教育委員会の後援を得て、広報面においても協力を仰ぐ。

6. Web 等における研究成果および開発教材の公開

慶應義塾大学外国語教育研究センターの Web サイトなどを通して、本事業の研究成果を公表し、また拠点校以外の学校でも利用可能な指導資料も配布する。もし可能であれば動画の公開なども行う。研究担当者の指導実践を（これまでのものも含めて）指導事例集としてまとめて印刷するとともに Web サイトで公開する。いずれも、単なる研究報告ではなく、文部科学省や各自治体教育委員会の協力も仰ぎつつ、外国語教育の直接の参考となる事例の提示となることを目指す。

(6) 評価計画

1. 教師自身の省察、および拡大プロジェクトメンバーを含めた教師間のインタビューを、公開授業や会合ごとに実施し、研究課題の達成度について評価を行う。

2. 高等学校 1・2・3 年（1 校のみ中学 1・2 年）について、主に公開授業の対象となった、パフォーマンス課題を実施したクラスの生徒に、単元終了後にアンケート調査を実施するとともに、数名に関しては質的調査を行って、授業の効果を検証して評価を行う。上記手段を用いるのは、

言語ごとに学習内容が異なる中で、パフォーマンス評価の効果を共通の指標として考えるためであるが、一方でまた、各言語の外部検定試験が測る能力と本プロジェクトが育成をめざす資質・能力との関係性を十分に考慮したうえで、外部検定試験による結果を評価として考慮することも検討する。

3. ワークショップの参加者に対して、終了後にアンケート調査を実施し、支援の効果を検証して評価を行う。
4. 本事業の取り組みについて学会等で口頭発表を行い、参加した外部の専門家によってプロジェクト全体の評価を行ってもらう。

4. 実施体制

(1) 実施体制の概要 ※別紙参照

慶應義塾大学外国語教育研究センター内に、同センター研究推進委員会に属する大学側の研究担当者（4名、研究主任を含む）、実際に研究拠点校で英語以外の外国語（独仏中韓西）の授業を受け持つ研究拠点校6校の担当者（8名）、運営指導委員（4名）からなる当該事業のプロジェクトチームを組織する。研究拠点校は、多様な学校事情を考慮し、公私立、総合学科、総合選択制、定時制とし、履修に関しても、必修/選択、単位数もさまざまな学校とした。なお、プロジェクトメンバーの他に、拡大プロジェクトメンバーには、研究プロセスに対する助言をしてもらうとともに、研究成果の共有や成果の拡大をめざす。また『外国語学習のめやす』を開発した国際文化フォーラムには引き続き、高等学校の外国語教育の目標・内容・方法全体についてと外国語教師を対象とした研修を実施してきた知見を提供してもらうとともに、研究成果の高等学校の外国語教育関係者への周知に関して全面的協力を得る。このほか、本事業に申請予定の立命館大学・大東文化大学・大阪大学とは情報交換をはじめ有機的な連携により、研究を深化させる体制を構築する。

(2) 研究担当者（研究主任は氏名に○印を付すこと）

職 名	氏 名	担当学年及び教科
慶應義塾大学/教授	○山下一夫	中国語
慶應義塾大学/教授	吉川龍生	中国語
慶應義塾大学/教授	境一三	ドイツ語、ドイツ語教育
慶應義塾大学/助教	縣由衣子	フランス語、英語
カリタス女子中学高等学校/教諭	Barbara BAUDE	中学 1,2 学年、高校 2 学年/フランス語
神奈川県立横浜翠嵐高等学校（定時制の課程）/講師	遠藤正承	2,3,4 学年/韓国語
横浜市立みなと総合高等学校/講師	温悠	1,2,3 学年/中国語、日本語

横浜市立みなと総合高等学校／講師	池谷尚美	2,3 学年／ドイツ語
東京都立青梅総合高等学校／講師	石黒みのり	2,3 学年／韓国語
神奈川県立藤沢総合高等学校／教諭	潮田央	1,2,3 年次／中国語、国語
神奈川県立藤沢総合高等学校／教諭	佐々木亮太	2,3 年次／スペイン語、英語
埼玉県立伊奈学園総合高等学校／教諭	鈴木冴子	1,2,3 学年／ドイツ語、英語

(3) 運営指導委員会

①組 織

氏 名	所 属	職 名	備考（専門分野等）
日比野規生	神奈川県立深沢高等学校	教諭	英語教育、スペイン語教育
山下誠	高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク 神奈川県立岸根高等学校	元代表 教諭	韓国語教育、社会科教育
辻祐哉	神奈川県立平塚江南高等学校	教諭	英語教育
水口景子	(公財)国際文化フォーラム	常務理事	外国語教育、国際交流

②活動計画

<p>運営指導委員会は、本事業の大学側の研究担当者とともに事業全体の運営とプロジェクトメンバーへの指導などを行う。具体的な活動内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間で数回開催される全体会で、メンバーへの助言・指導、また議論の提案・整理を行う。 ・昨年度までの研究成果についての検証作業を行う。 ・今年度の研究テーマに関する資料収集を含む準備作業を進める。 ・単元指導案フォーマットの改訂案を作成する。 ・拠点校の研究担当者の指導案に対して助言・指導を行う。 ・研究授業の見学を進める。コロナ禍に鑑み、ひとまず 10 月～11 月のみとするが、拠点校や授業担当者とも相談し、状況を見据えながら、可能であればその他の時期においても設定を行う。 ・ワークショップの策定や実施を行う。 ・指導事例集の内容について助言を行う。
--

5. 年間事業計画

月	研究拠点の取組	運営指導委員会
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ●拠点校の研究担当者 ・昨年度までの研究成果と自身の年間授業計画の検証を踏ま 	昨年度までの研究成果の検証と今年度の研究

5月	え、今年度の年間授業計画を作成、授業の実施（年間通じて） ・単元指導案様式に対するフィードバック作成 ●大学側研究担当者：昨年度までの研究成果の検証と今年度の研究テーマに関する資料収集研修の企画など準備作業	テーマに関する資料収集研修の企画など準備作業
6月	■第1回プロジェクト全体会合@オンライン（研修と同時期に開催） 単元指導案様式について検討	・全体会合、研修参加 研修を踏まえた、単元指導案様式の改訂案作成
7月	■プロジェクトメンバー全員を対象とした研修@オンライン（6-8月に3回開催）	・拠点校の研究担当者の指導案（年間、単元、研究授業）に適宜助言
8月	テーマ1：育成すべき資質・能力の三つの柱（外国語教育を中心に） テーマ2：新学習指導要領における評価 テーマ3：複言語・複文化教育 ●拠点校の研究担当者：10-12月に実施する研究授業の指導案準備 ●大学側研究担当者：全体会合、研修参加 ・研修を踏まえた、単元指導案様式の改訂案作成 ・拠点校の研究担当者の指導案（年間、単元、研究授業）に適宜助言	
9月	■第1回コアメンバー会合@オンライン ●拠点校の研究担当者： ・10-12月に実施する研究授業の指導案準備 ●大学側研究担当者： ・第1回コアメンバー会合に参加	・第1回コアメンバー会合参加：単元指導案改訂案のフィードバックを反映させた改訂案の作成とワークショップの企画を検討
10月	■第2回全体会合開催@オンライン（第2回コアメンバー会合と同日開催） ●拠点校の研究担当者 ・全体会合参加 ・研究授業の実施 ・12月以降に実施するワークショップの実践報告準備	・全体会合参加 ・研究授業の見学 ・第2回コアメンバー会合参加：ワークショップと指導事例集の企画・準備
11月	●大学側研究担当者 ・全体会合および第2回コアメンバー会合に参加 ・研究授業の見学 ・ワークショップと指導事例集の企画・準備	
12月	■ワークショップの開催@オンライン（12月から2月に2回開催）	第3回コアメンバー会合参加：指導事例の公開

1月	<ul style="list-style-type: none"> ■第3回コアメンバー会合開催@オンライン ●拠点校の研究担当者 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップに参加し実践を報告 	(事例集印刷、Web サイト)について検討
2月	<ul style="list-style-type: none"> ●大学側研究担当者： <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップに参加 ・第3回コアメンバー会合に参加 ■開発した教材や指導資料のWeb公開に向けての準備(12月から2月) ●拠点校の研究担当者： <ul style="list-style-type: none"> ・開発した教材や指導資料の公開用原稿の作成 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ■開発した教材や指導資料のWeb公開 ■研究成果のJACTFL(日本外国語教育推進機構)のシンポジウムでの発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開する資料に対する助言 ・シンポジウムでの発表内容に対する助言
【その他の取組】※あれば記入		

6. 再委託に関する事項

(1) 再委託の相手方の住所及び名称等

住 所： _____

名 称： _____

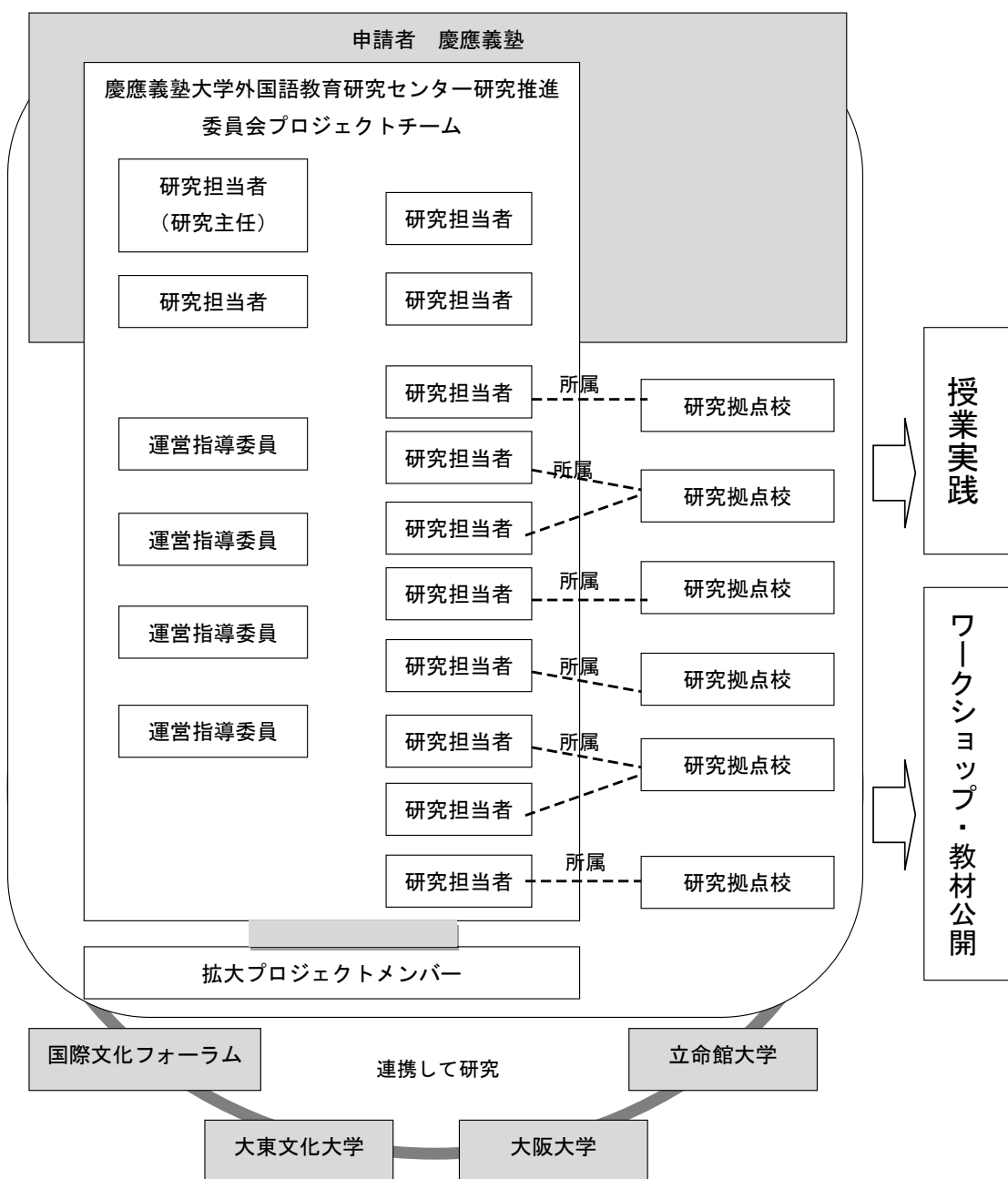
代表者名： _____

(2) 再委託を行う業務の範囲

(3) 再委託の必要性

(4) 再委託金額(単位：円)

「4. (1) 実施体制の概要」イメージ図



指導案様式

■授業の概要

1. 学校名：
2. 科目名：
3. 単位数：
4. 担当者：
5. クラスの構成：高校 n 年生 m 名(男 r 名・女 o 名)
6. 生徒の概況：
7. 使用教科書：

■年間指導案

1. 年間目標：

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養

2. 単元構成：

月	単元名	備考

■単元指導案

1. 単元名

2. 単元の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養

3. 社会と文化への気づきのポイント

4. 他教科・他科目との連携

5. パフォーマンス課題

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価			⇒個人内評価

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1			
2			
3			

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
		<	

2. 補足事項

横浜市立みなと総合高等学校のドイツ語の取り組み (2021年度)

授業名：ドイツ語

担当者：池谷 尚美

クラスの概要：2単位、受講生8名（2年生6名、3年生2名、女子7名、男子1名）

生徒の学習動機：多言語学習がしたい、世界史や心理学が好き、外国へ行きたい、動物看護師になりたい、国際交流がしたい、など。

使用教科書：『プリマ・プラス』朝日出版社

年間目標：

・ドイツ語圏の同世代の生徒や、身近にいる同世代の生徒と交流することを想定し、ドイツ語やドイツ語圏の文化に関心を深め、相手の文化と自分の文化をお互いに紹介するような活動を通じ、自己紹介・趣味・自分の一日について話題にし、自ら発信することができる。

資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
・ドイツ語の音声、語彙、文法、言語の働き等を母語や既習言語の知識を援用しながら理解する。	・相手と自分の関係や、相手の文化的な背景に配慮しつつ、コミュニケーションを円滑に進めるために、4技能のスキルを場面に応じて適切に運用することができる。 ・相手の考えを理解し、自分の考えを様々な手段（文字テキスト、ジェスチャー、写真、動画等）を使いながら伝えることができる。	・相手と積極的に関係を構築するために、自ら発信し、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。 ・ドイツ語圏の文化を、他文化や自文化と比較しながら理解を深めることと同時に、自文化や固定観念についても内省することができる。

単元指導案

1. 単元名 自分的一天
2. 言語名 ドイツ語
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
・数字の表し方	・自分と同年代の、様々な国の生	・自律的・主体的に外国語を用いて、

<ul style="list-style-type: none"> ・時間や曜日の言い方（～時に/～曜日に～をする） ・一日の流れについての言い方 	<p>徒たちの学校生活について想像する力。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて必要な情報を収集し、表現する内容を判断する能力。 ・既習事項やビジュアルエイドを活用しながら、伝えたい事柄を工夫して構成・表現する能力。 	<p>相手に伝えようとする態度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語圏や、他の文化圏の学校生活について理解し、相手の文化背景を考慮しながら、情報や考えを伝えようとする態度。 ・目標言語の学習を通じて、積極的に周囲の人を尊重しながら関わり、相互理解を深めようとする態度
--	--	--

- 4. 社会と文化への気づきのポイント
- 5. 他教科・他科目との連携：中国語、フランス語
- 6. 取り上げる教材・題材や具体的なパフォーマンス課題や言語活動

ドイツ語圏の同世代の生徒や同世代の身近な生徒と交流することを想定し、自分たちの一日や一週間について話し、日本・ドイツ以外の同年代の生徒（フランスと中国を想定）の学校生活を語ろう！

「中国やフランスでの学校生活は？ドイツ語で報告してみよう！」

7. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価（数値化する）		⇒個人内評価（数値化できない）	
<ul style="list-style-type: none"> ・数字を正しく聞いたり、発音したりできるか ・時間や曜日の言い方（～時に/～曜日に～をする）を表現できるか ・一日の流れについて読んだり、書いたり、話したりできるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と同年代の、様々な国の生徒たちの学校生活について想像できているか ・目的に応じて必要な情報を収集・表現できているか ・既習事項やビジュアルエイドを活用しながら、伝えたい事柄を工夫して構成・表現しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的・主体的に外国語を用いて、相手に伝えようとしているか（学習ストラテジーを使っているか） ・ドイツ語圏や、他の文化圏の学校生活について理解し、相手の文化背景を考慮しながら、情報や考えを伝えようとしているか ・目標言語の学習を通じて、積極的に周囲の人を尊重しながら関わり、相互理解を深めようとしているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的・主体的に外国語を用いて、相手に伝えようという意欲を持つことができたか ・ドイツ語圏、他の言語圏、自文化と比べて、どのような気づきがあるか。 ・ドイツ語圏をはじめ、他の文化に興味をもって学習ができているか。 ・自分の学習について、内省し、次にどのような学習が必要か分析できているか。

8. 指導と評価の計画（単元の指導と評価の展開）（単元案）

○1時間当たり、今の所40分×2。9月末まで分散登校。 ○事前に、中国語・フランス語の生徒たちに、Google Classroomを通じて、自己紹介動画を送る。(10/7)			
次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1・2 (10/21)	○時間の言い方と曜日の言い方を学ぶ	【知識・技能】数字や曜日を理解している 時間や曜日の聞き方や答え方を理解している 【思考・判断・表現】自分が何時に何をするか、単文で質疑応答できる 【主体的に学ぼうとする態度】分からないところがあっても助け合い、相手に伝えようとしている	単答式ペーパーテスト ペアでの受け答え ペアでの受け答え 行動の観察
3・4 (11/4)	○一日の生活についてテキストを読む。	【知識・技能】何時に何をできるかと言える。 【思考・判断・表現】書かれている内容を自分の場合に应用できる。 【主体的に学ぼうとする態度】テキストの真似ではなく、できるだけ自分の日常生活を言おうとしているか	テキスト内容理解に関する小テスト ペアワークでの発言の内容
5・6 (11/11)	○ドイツ語圏の高校の時間割を見て、日本の時間割と比べる	【知識・技能】ドイツの学校での時間割について理解している 【思考・判断・表現】ドイツの時間割を見て、何曜日にもどの授業があるか、何時で終わるかを言える。 【主体的に学ぼうとする態度】日本とドイツ語圏の学校生活を比べる。	時間割の科目・小テスト ペアワークでの発言の内容
7・8 (11/18)	○一日や一週間の生活についてお互いに尋ね合う。	【知識・技能】学校生活に関する単語を理解し、動詞を変化させて文を作ることができる 【思考・判断・表現】相手に何曜日に何があるかを聞くことができる。 【主体的に学ぼうとする態度】相手の一日・一週間について興味を持って聞くことができる	ペアでのやり取り、行動観察
9・10 (11/25)	○自分の一日や一週間について表現できる	【知識・技能】テキストの重要な情報を読みとることができる 【思考・判断・表現】自分の一日や一週間を補助資料（小	テキスト内容理解について的小テスト 動画での話す内容

		<p>さなポスター）を使って話す</p> <p>【主体的に学ぼうとする態度】 自分の一日や一週間を聴き手に分かるように伝えているか？</p>	
11・12 (12/2)	○中国、フランスの学校生活についての発表準備	<p>【知識・技能】テキストの重要な情報を読みとり、ドイツ語に対応する表現を見つけることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 何を伝えるかを選択することができる。</p> <p>【主体的に学ぼうとする態度】 知らない言語で書かれた時間割も読み解こうとしているか</p>	<p>グループでの話し合いの様子</p> <p>各自の原稿</p>
13・14 (12/16)	○中国、フランスの学校生活についての発表（動画撮影）	<p>【知識・技能】発表に必要な単語や表現を身につけられているか？</p> <p>【思考・判断・表現】相手を意識したプレゼンができているか？</p> <p>【主体的に学ぼうとする態度】 他文化での学校生活と自分たちの学校生活を比較して、自分たちの生活を見直したり、疑問を持ったり、異なる文化に理解を深めたりできる。</p>	<p>プレゼンの内容</p> <p>プレゼンでの表現・態度</p> <p>Google Classroomでのコメント</p>
15 (12/23 日 5 限)	○発表の評価	<p>【知識・技能】相手チームが発表した内容を正しく聞けているか？</p> <p>【思考・判断・表現】相手チームの発表でどんな点が優れているかを判断し、評価することができる。</p> <p>【主体的に学ぼうとする態度】 興味を持って相手チームの発表を理解し、様々な国の学校生活を理解しようとする態度。</p>	<p>評価ルーブリック（個人での自己評価、グループでのピア評価）</p>

9. 対象となる授業の指導案

時	学習活動	指導上の留意点	学習活動
13・14 (12/16)	5 限 13:20-14:10	<p>○自分の担当している箇所をはっきりと相手を見て伝えているか。</p> <p>○相手に伝えようとしているか。</p>	<p>○授業全体の進行等</p> <p>○自己紹介（ゲストに対して）</p> <p>○発表内容の再検討、ポスター作製、発音練習</p> <p>○動画撮影</p>
	6 限 14:20-15:10		<p>○動画撮影続き</p> <p>○ゲストに質問、ゲストとの話し合い（外国語の学習法な</p>

			ど) ○今日の感想を動画撮影して、中仏チームにお礼を伝える
--	--	--	----------------------------------

10. 単元の内容や評価の実際

①はじめに

(年間指導計画上での位置づけや、単元の評価規準と学習活動設定の理由)

年間指導計画では、2回目のパフォーマンス課題。1回目は6月に、「クラスメートの好きな事を紹介しよう!」を行った。

① (カリキュラム・マネジメントについて、または他教科・他科目との連携)

②パフォーマンス課題の説明

(パフォーマンス課題) ドイツ語圏の同世代の生徒や同世代の身近な生徒と交流することを想定し、自分たちの一日や一週間について話し、日本・ドイツ以外の同年代の生徒(フランスと中国を想定)の学校生活を語る事ができる。
今年度はGoogle Classroomが設定できるので、クラスメンバーを2班に分け、中国語・フランス語の生徒と連絡を取る係を決める。
クラス内発表では、フランス・中国の時間割、昼食、そのほかの違いについて、それぞれの班が話す。

③社会と文化への気づきのポイント

目標言語圏の文化をはじめ、それ以外の文化も比較することで、自文化を見直し、様々な文化や習慣に気づくことができる。
--

④単元の流れ

項目8(指導案)を参照。

⑤評価について

形成的評価:小テストや宿題

総括的評価:ルーブリック

ルーブリック 該当する所に○をつけ、コメントを記入しましょう。

評価 () Evaluation	記入者名 () Name :			
	努力しよう☆ ausreichend	あと少し頑張ろう☆ ☆befriedigend	目標達成☆☆☆ gut	目標以上を達成☆ ☆☆☆sehr gut
内容に適した語彙・文法	内容に応じた文型や語彙が選択されていないので、内容が全く伝わらない。	内容に応じてごく限られた文型や語彙が選択されている。	内容に応じて適切な文型を選び、適切な単語や文型の選択ができています。	内容に応じて多彩な表現を使い、適切な単語や文型を多く使用している

音声（声の大きさ、発音の明瞭さ）	発音が不明瞭または声が小さいために、ほとんど聞き取れない。	明瞭さまたは声の大きさが足りずに聞き取れない部分が所々ある。	時々不明瞭な所はあるが、大体内容が聞き取れる声の大きさをゆっくりと話している。	十分な声の大きさを、はっきりゆっくり話している。
発表態度	発表メモばかり見て、全く聴き手のほうに意識が向いていない。	発表メモを見ることが多く、聴き手は時々しか見ていない。	発表メモを見ることはあるが、聴き手に頻繁に目を向け、語りかける姿勢や目線で話している。	発表メモにあまり頼らず、聴き手を絶えず意識した姿勢や目線で、聴き手に反応しながら話す。
異文化への意識	日本との違いについて、まったく意識されていない	日本との違いについて、多少意識されている。	日本との違いについて、大いに意識されている。	日本との違いについて、しっかり意識され、独自の考察もある。
協働作業（自分のチームについて）	役割分担ができておらず、負担が偏っている	役割分担はされたが、結果的に負担が偏った。	役割分担も適切で、個人がそれぞれの役割を果たした。	チームの連携がとれて、お互い助け合いながら実施できた。
その他コメント				

令和3年11月22日(月)

埼玉県立伊奈学園総合高等学校「ドイツ語」の取り組み

学校名：埼玉県立伊奈学園総合高等学校

授業名：ドイツ語会話

担当者：鈴木 冴子

クラスの概要：高校1年生5名(男3名・女2名)既習者なし、週4時間(4単位)

生徒の学習動機：スポーツや漫画、音楽または、個人的な入学以前のドイツとのつながりからドイツ語を学びたい生徒が多い。また、数学を必修科目に追加して学びたくないから、という消極的理由の生徒もいる。

使用教科書：『プリマ・プラス』朝日出版社

年間目標：

英語以外の外国語(主にドイツ語)に慣れ親しみ、英語や日本語などとの違いや共通点に気づき、身の回りのことについてドイツ語を使って表現できるようになる。

そのことにより、外国語で表現し、相手に伝わる楽しさについて実感が持つことができる。

また、自分が置かれている状況や社会、コミュニケーションについて考え直すきっかけとすることができるようになる。

資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
ドイツ語特有の発音に慣れ親しみ、伝わる発音を身につける。 身の回りを表すのに必要な表現の基礎を身につける。 既習の外国語の知識を生かしながらドイツ語の基本的な文の構造を身につける。	場面に応じて適切な表現を使い分けるようになる。 ある程度のまとまった内容について聞き手に対し、1分程度のスピーチができるようになる。 自分のことや好きなこと、身近な人物について相手とのやり取りができるようになる。	コミュニケーションを取ろうという態度を育成する。 同じ言語を学ぶという目標を持ったクラスの生徒同士で協力しながら学ぶことができる。 地道に外国語を学習し、学ぶ態度を養う。 日本語と他言語との比較、他文化との比較ができるようになる。

単元指導案

1. 単元名 Hobbys
2. 言語名 ドイツ語
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
趣味や休日の過ごし方についての表現ができる。 三人称人称変化を適切に変化させることができる。 話法の助動詞や分離動詞をも用いた文構造を理解する。	自分の趣味や休日の過ごし方についてある程度まとまった文章にまとめて表現できる。 相手や自分のできることやその程度についてやり取りをすることができる。 友人との時間や曜日の表現を用いて約束を取り付けることができる。	ドイツ語では誘いを断る際に、理由を求められることが多く、その理由も伝えられるようになる。また、日本語とのコミュニケーションの取り方の違いに気づくことができる。 話すことで伝えることも大切だが、文字で書き適切に伝えることの重要性に気づく。 ITスキルに差があったとしても、互いに助け合うことができる。

4. 社会と文化への気づきのポイント

ローコンテクストなドイツ語とハイコンテクストな日本語を比較することで、適切なコミュニケーションとは何か考えるきっかけとなる。そのことを他者とのコミュニケーションに生かしていく。

5. 他教科・他科目との連携

基本的な PC の操作。特にオンライン会議ツールのチャット機能を使い、ドイツ語で文章を打つことができる。(情報科)

6. パフォーマンス課題

中間課題：相手の週末のスケジュールを聞き、一緒に何かをする約束をするやりとりをする。

最終課題：上記中間課題をチャットである程度即興的に行う。

7. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
「定期考査」 ・筆記テスト 「課題」 ・ワークブック	「ルーブリック」 ・対話を行う (・チャットをする) 「定期考査」 ・インタビューテスト ・筆記テスト ・リスニングテスト	「ルーブリック」 相手との約束を取る ために、協同しやり とりをしている様 子。	・協同している状況 ・新しい気づき ・この課で学んだこと

8. 指導と評価の計画（単元の指導と評価の展開）（単元案）

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	本課のテーマについて理解し、趣味に関する語彙について学ぶ。	【知識・技能】 趣味に関する単語を発音し、自分のことについて言える。	
2	趣味の表現の復習 他者の趣味についての表現について学ぶ。	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力等】 趣味に関する動詞の二人称・三人称の表現を理解し、それをを用いて他者ことが表現できる。	
3	自分や友人の趣味について表現する	【思考力・判断力・表現力等】 インタビューをし、他者の趣味について表現できる。 自分の趣味について文でまとめることができる。	ルーブリック
4	週末の予定に関するやり取りを理解する	【知識・技能】 対話の内容を理解し、分離動詞を使った表現について理解する。 相手を誘う、またはそれに対する応答表現を学び、短いやりとりを行う。 【学びに向かう力・人間性】 日本ごとの違いについて考える。	
5	4のやりとりを作り発表する。	【思考力・判断力・表現力等】 友人との時間や曜日の表現を用いて約束を取り付ける対話を発表する。	ルーブリック
7	助動詞を使った表現を理解する	【思考力・判断力・表現力等】 できることや得意、不得意なことについて表現し、相手にも質問する。	
8	ドイツの若者について	【学びに向かう力・人間性】 グラフを読み取り、日本の高校生のデータと比較し気づいたことについて話す。	
9	相手との約束を取り付ける	【思考力・判断力・表現力等】 今まで学んだ表現を生かし、相手のスケジュールを確認しながら、一緒に何かをする約束をすることができる。	(ルーブリック)

9. 研究授業の対象となる授業の指導案

時	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	活動の確認	本時の目標の理解	観察
10	自分のスケジュールや表現の確認、PC操作	必要な表現を理解し、PCを立ち上げる	観察
10	自分のスケジュールを元にペアでやり取りを行う（その1）	約束に関する表現を用いているか 必要に応じて協力して行っているか	観察
10	自分のスケジュールを元にペアでやり取りを行う（その2）	約束に関する表現を用いているか 必要に応じて協力して行っているか	（ループリック）
5	まとめ	本日活動についての感想を言う	生徒の話聞く

10. 補足事項

9の授業を公開する日は本校は40分授業となっている。

9の活動はタブレットを用いることを想定している。

韓国朝鮮語 I 指導案(年間、単元、本時)

学校名：神奈川県立横浜翠嵐高等学校 定時制

授業名：外国語/韓国朝鮮語 I

担当者：遠藤正承

クラスの概要：高校 2～4 年生 13 名、週に 2 回、木曜日と金曜日に各 1 時間

日本語母語話者 3 名、タガログ語母語話者(英語話者)10 名

生徒の学習動機： K-POP 等に関心があるので、韓国語に関心があるので、単位取得のため、ほか。

使用教科書：『高校生のための韓国朝鮮語 新 好きやねんハングル I』白帝社

年間目標：

- ・学習を通して韓国語に関心を深め、自己紹介、食事、買い物等、身近な場面で韓国語を一言でも使うことができるようにする。
- ・日本や自分のルーツの国との違いを発見しながら、韓国文化への関心を深めることができるようにする。

資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
韓国語の発音に慣れ、定型文やよく使うフレーズを覚える。 日常生活で使いそうな身近な語等、使える語彙を増やせるようにする。 漢字語数詞、固有語数詞に慣れ、使用する。	相手が何を表現しているのか、何を言いたいのか理解し、一言二言でもよいので自らも発信できるようにする。 日本語とは異なる韓国語独特の語彙、意味、文法等に気づき使えるようにする。	他者と関わり、協力しようとすることができる。 日本語や自分の母語と比較対照しながら、韓国語との共通点や違いについて考察を深めることができる。 日本文化や自分のルーツの文化と比較対照しながら、韓国文化との共通点や違いについて考察することができる。

単元指導案

1. 単元名 コロナの今、みんなに送りたいメッセージ
2. 言語名 韓国語/韓国朝鮮語 I
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
韓国語の発音に慣れ、始めと終わりの挨拶、定型文やよく使うフレーズを覚える。 「타갈로그어 タガログ語」「한국어 韓国語」「영어 英語」等の言語名称や自分が選んだ語を韓国語で正しく発音することができる。	相手が何を表現しているのか、何を言いたいのか理解し、一言二言でもよいので自らも発信できるようにする。 「○○は韓国語で何といいますか」「○○といいます」等のやりとりを適切に言えるようにする。	他者と協力しながら、ものごとに取り組むことができるようにする。 他者の取り組みを参考にすることができるようにする。 韓国語学習を通して、困難な状況に打ち勝ち、先を見通す力を持つことができるようにする。

4. 社会と文化への気づきのポイント

これまで持っていた韓国や韓国文化への理解が深まる。または、これまでとは異なる見方、理解をすることになる。

5. 他教科・他科目との連携

- ・漢字音に関する韓国語と日本語の音韻対照を通じて、日本語の音韻をより深く理解する。(日本語)
- ・外来語、借用語に関して、韓国語、タガログ語、英語、日本語を対照しながら類似点、差異を認識する。(英語)
- ・韓国と日本の文化的共通点や違いに注目し、考察を深める。(地理歴史)

6. パフォーマンス課題

- ・メッセージツリーを作ろう
コロナの今、みんなに贈りたいことばを、韓国語/タガログ語(英語)で、一人5個、木の葉カードに書き、木に貼りつける。
自分の書いた語を発表し、それらについて一言感想を述べる。(日本語または英語で)

7. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価			⇒個人内評価
<ul style="list-style-type: none"> ・カード作り ・ワークシート ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を理解し発表したか。 ・大きな声でゆっくり発表したか。 ・聴者とのやりとり 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら調べる。 ・わからないことを教員に聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現したいことを韓国語で言う。 ・好きな韓国語を言う。 ・母語に改めて関心を向ける。

8. 指導と評価の計画（単元の指導と評価の展開）（単元案）

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	○作業概要の説明と質疑。 ○3個のことばと、したいこと1つ考え、韓国語/タガログ語(英語)または日本語でワークシートに記入。	【知識・技能】新出語彙を理解している。 既習語彙、文法リストから確認している。	教員とのやりとり 教員とのやりとり
2	○「～と～です」表現の練習	【知識・技能】「～と～です」表現を理解している。 【思考力・判断力・表現力等】内容を理解しながら声を出している。	ワークシート 教員とのやりとり
3	○始めと終わりの挨拶発表に関連した定型文等の練習	【知識・技能】挨拶、定型文等の意味を理解している。 【思考力・判断力・表現力等】内容を理解しながら声を出している。	ワークシート 教員とのやりとり
4	○発表原稿作成	【知識・技能】内容を理解しながら作成している。 【思考力・判断力・表現力等】内容を理解しながら声を出している。	発表原稿
5	○声を出しながら発表の練習	【知識・技能】内容を理解しながら発表している。 【思考力・判断力・表現力等】内容を理解しながら声を出している。	発表原稿
6	○発表	【知識・技能】内容を理解しながら発表している。 【思考力・判断力・表現力等】内容を理解しながら声を出している。	ルーブリック

9. 研究授業の対象となる授業の指導案

時	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出欠点呼 ・ 挨拶ことば、数詞等を発声練習。 ・ 今日行なうことを確認。 	<p>声が出ているか。 (「ゆっくり、大きな声で」を指示)</p>	観察
30	発表および質疑	<p>声が出ているか。 正確に発声しようとしているか。 他者の発表を聴き、理解しようとしているか。 ワークシート記入</p>	観察 ワークシート(ルーブリックによる)
10	まとめ	<p>ワークシート記入 アンケート記入</p>	ワークシート(ルーブリックによる)

10. 補足事項

学習指導案

研究授業

- 1 実施日時・場所 2021年12月17日(金)16:45～17:30・多様化I教室(プレハブ棟1階東側)
- 2 教科・科目 外国語・韓国朝鮮語I
- 3 対象 選択者13名
 学年別内訳 2年2名、3年9名、4年2名
 母語別内訳 タガログ語・英語10名、日本語3名
 常時出席者は8～10名
- 4 授業者 遠藤正承(非常勤講師)
- 5 単元 コロナのなか、みんなに送りたいメッセージ
- 6 ねらい ①発表を通して生徒が充実感・達成感を持ち、学びの意欲を向上させることができるようにする。
 ②生徒と教員が協働で授業を作りあげ展開できるようにする。
- 7 目標 ①生徒が既習の文法項目や定型文、語彙を使いながら文を作ることができる。
 ②大きな声で他の生徒にわかるよう発表することができる。
 ③他の生徒の発表内容を聞き、理解することができるようにする。
 ④日本語以外の言語や母語について関心を拡大することができるようにする。
- 8 教材 ①高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク西日本ブロック編著
 『高校生のための韓国朝鮮語 新 好きやねんハングルI』白帝社、2009年
 ②プリント
- 9 学習の流れ

	内容	活動・留意点	評価方法
導入	・出欠点呼 ・挨拶ことば、数詞等を発声練習。 ・今日行なうことを確認。	・コーラスリーディング ・「ゆっくり、大きな声で」を指示	・声が出ているか。
展開	・二人一組、ロールプレイ形式で発表。 ・発表終了後、各言語のことばを再度紹介し練習する。	・生徒は黒板に好きな韓国語、タガログ語を3個書く。 ・生徒は好きなことばについて発表。 ・聴者の生徒は発表を聴きながらメモする。	・聴者に聞かせようとしているか。 ・理解し、メモできているか。 ・ワークシート(ルーブリックによる)
まとめ	ワークシート完成	ワークシート記入 (ルーブリックによる)	・的確に自分の発表をふりかえっているか。 ・他の生徒の発表をよく聴き記しているか。 ・ワークシート(ルーブリックによる)

《ダイアログ》

Q:안녕하세요?
 A:안녕하세요?
 Q:○○씨, 좋아하는 말 세 개 소개해 주세요?
 A:(친구)하고 (꿈)하고 (평화)예요.
 Q:제일 좋아하는 말은 뭐예요?
 A:(친구)예요.
 Q:(친구)는 타갈로그어로 뭐라고 해요?
 A:(kaibigan)예요.
 Q:영어로는 뭐라고 해요?
 A:(friend)예요.
 Q:와, 재미있군요.

Q:こんにちは。
 A:こんにちは。
 Q:○○さん、好きなことばを三つ紹介してください。
 A:(친구ともだち)と(꿈 夢)と(평화 平和)です。
 Q:いちばん好きなことばは何ですか。
 A:(친구)です。
 Q:(친구)はタガログ語では何と言いますか。
 A:(kaibigan)です。
 Q:英語では何と言いますか。
 A:(friend)です。
 Q:わあ、おもしろいですね。

《国名、言語名》

国名	ハングル	よみかた
韓国	한국	ハングク
中国	중국	チュウグク
フィリピン	필리핀	ピルリピン
日本	일본	イルボン
言語名	ハングル	よみかた
韓国語(=朝鮮語)	한국어	ハングゴ
中国語	중국어	チュウグゴ
タガログ語	타갈로그어	タガルログオ
英語	영어	ヨロオ
日本語	일본어	イルボノ

《固有語数詞と〇個表現》

ひと~	ハングル	〇個	ハングル
ひと	하나	一個	한 개
ふた	둘	二個	두 개
み	셋	三個	세 개
よ	넷	四個	네 개
いつ	다섯	五個	다섯 개
む	여섯	六個	여섯 개
なな	일곱	七個	일곱 개
や	여덟	八個	여덟 개
ここの	아홉	九個	아홉 개
とお	열	十個	열 개

Goal setting = rubric for evaluation

	5 <small>もくひょういじょうたっせい</small> 目標以上達成	4 <small>もくひょうたっせい</small> 目標達成	2 <small>もうすこしがんばろう</small> もう少しがんばろう	1 <small>どりよく ひつよう</small> 努力が必要
	achievement above the goal	attainment of the goal	work a little harder.	take effort.
<small>こゑ おおき</small> A 声の大きさ volume	<small>とても おおき</small> とても大きい very loud	<small>おおき</small> 大きい loud	<small>ちひさい</small> 小さい quiet	<small>きこえない</small> 聞こえない too quiet to hear
<small>スムーズ</small> B スムーズ smoothness	<small>とても スムーズ</small> とてもスムーズ very smooth	<small>スムーズ</small> スムーズ smooth	<small>すこしとまる</small> すこし止まる sometimes pause	<small>よくとまる</small> よく止まる often pause
<small>ないよう</small> C 内容の わかりやすさ ease of understanding of the content	<small>あいて</small> 相手にわかるよう 工夫した designed to be early understand	<small>だいたいわかる</small> だいたいわかる mostly understand	<small>ところどころわか りづらい</small> ところどころわか りづらい hard to understand in some parts	<small>ないよう</small> 内容がわかりづら い the contents are hard to understand
<small>かんしん かくだい</small> D 関心の拡大 growing interest in the content	<small>おおいに関心をも った</small> おおいに関心をも った highly-interested	<small>だいたい関心をも った</small> だいたい関心をも った largely-interested	<small>あまり関心をも たなかった</small> あまり関心をも たなかった I didn't have much interest.	<small>ぜんぜん関心をも たなかった</small> ぜんぜん関心をも たなかった I didn't have interest at all.
<small>はっぴょうないよう</small> E 発表内容へ の理解 understanding of the presentation	<small>よく内容を理解し た</small> よく内容を理解し た well-understood	<small>だいたい理解し た</small> だいたい理解し た largely-understood	<small>あまり理解でき なかつた</small> あまり理解でき なかつた I didn't understand very much.	<small>ぜんぜん理解でき なかつた</small> ぜんぜん理解でき なかつた I didn't understand at all.

()학년 ()반, 이름 name()

好きなことばを紹介しよう! ワークシート

2021년 12월 17일(금)

「目標設定=評価のためのルーブリック」をみながらこたえてください。

なまえ (カタカナ でよい)	・発表者が紹介した語を3つ。 (ひらがな、英文字等で書いてもよい。) ・発表への感想一言	目標設定=評価のためのルーブリック			
		5	4	2	1
1	① ② ③ ・発表へ一言	A			
		B			
		C			
		D			
		E			
2	① ② ③ ・発表へ一言	A			
		B			
		C			
		D			
		E			
3	① ② ③ ・発表へ一言	A			
		B			
		C			
		D			
		E			
4	① ② ③ ・発表へ一言	A			
		B			
		C			
		D			
		E			

学校名：青梅総合高等学校

授業名：ハンゲル

担当者：石黒みのり

クラスの概要：高校2,3年生（計38名）既習者なし、週に1回、火曜日に2単位

生徒の学習動機：K-POPやドラマ、化粧品や食べ物等のKカルチャーに関心を持つ生徒が多い。

使用教科書：『最新チャレンジ！韓国語』白水社

年間目標：

- ・韓国語に関心を持つことができる。日本語（母語）との共通点や違いを見つけることができる。
- ・学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現（発信）することができる。
- ・簡単な表現は聞き取ることができ、やりとりすることができる。

資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
・自己紹介、紹介するときの定型文 ・「～は～です／ます」 ・「～ではありません」 ・「～が（に）あります／ありません」 ・「～が何ですか？」「～がどこですか？」（疑問詞） ・「好きな〇〇は何ですか」 ・動詞、形容詞の活用（かしこまった「ですます」体） ・適切な発音、抑揚、声の大きさ、スピード	・学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現（発信）することができる。 ・（学習したことを前提に）簡単な表現は聞き取ることができ、やりとりすることができる。	・韓国語に関心を持つことができる ・学習した表現や文法、単語を通して日本語（母語）との共通点や違いを見つけることができる。

単元指導案

1. 単元名 7 課「これは何ですか？」
2. 言語名 韓国朝鮮語
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・相手の好きなものを韓国語で質問できるようになる。また聞き取ることができる。 ・質問の仕方(パターン)を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現(発信)することができる。 ・(学習したことを前提に)簡単な表現は聞き取ることができ、やりとりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語に関心を持つことができる ・学習した表現や文法、単語を通して日本語(母語)との共通点や違いを見つけることができる。 ・相手に興味関心を持って接することができる。

4. 社会と文化への気づきのポイント

- ・韓国語、日本語との音韻・文法等の違いを発見、認識する。
- ・韓国語と日本語を対照しながら違いや類似性を認識し、韓国語に親近感を持つ
- ・実際に韓国語母語話者との出会った際に、少しでも韓国語を聞き取り、話すことができる。

5. 他教科・他科目との連携 : なし

6. パフォーマンス課題

皆に好きなことを自由に質問してみよう

7. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・「好きな○○は何ですか」 ・適切な発音、抑揚、声の大きさ、スピード 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現(発信)することができる。 ・(学習したことを前提に)簡単な単語は聞き取ることができ、やりとりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した文法及び語彙を積極的に使用し、工夫して表現(発信)することができる。 ・(学習したことを前提に)簡単な単語は聞き取ることができ、やりとりすることができる。 ・聞き手を意識して質問を考えることができる。 ・相手に伝わるような発音や抑揚を意識できる。 	<p>報告書の作成及び教員によるフィードバック</p>

8. 指導と評価の計画（単元の指導と評価の展開）（単元案）

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	7課「○○は何ですか」 ・名前は何ですか ・職業は何ですか ・趣味は何ですか 「○○はどこですか」 ・家はどこですか ・学校はどこですか	【知識・技能】 やりとりに必要な新出語彙を理解する 既習語彙、文法リストから確認する	報告書の作成及び教員による フィードバック
2	7課「○○は何ですか」 好きな○○は何ですか ・好きな運動は何ですか ・好きな食べ物は何ですか	【知識・技能】 やりとりに必要な新出語彙を理解する 既習語彙、文法リストから確認する	報告書の作成及び教員による フィードバック
3	好きな○○は何ですか 飲み物、季節、科目… （『できる韓国語 #中高校 生の基本編』より引用） ・オリジナル質問を考える 各グループ1問ずつ出す 各グループ2つずつ答える	【知識・技能】 やりとりに必要な新出語彙を理解する 既習語彙、文法リストから確認する	報告書の作成及び教員による フィードバック

9. 研究授業の対象となる授業の指導案

時	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
10分	報告書返却 質問へのコメント返し	前回の振り返りや復習 ができているか	なし
30分	好きな○○は何ですか 飲み物、季節、科目… （『できる韓国語 #中高校 生の基本編』より引用） ・オリジナル質問を考える 各グループ1問ずつ出す 各グループ2つずつ答える		
10分	報告書による自己評価	報告書で今回の振り返り ができているか	報告書記入

10. 補足事項

すでに実施済み

学校名：カリタス女子中学高等学校

授業名：フランス語会話

担当者： BAUDE Barbara

クラスの概要：高校二年生 14名 会話は週一回

生徒の学習動機：フランス語を第一外国語に選んでいる生徒で、フランス・フランス語圏への興味
関心の強い生徒が多い。

使用教科書：『Adomania2』アシェット出版社 + 『La ville souterraine』アシェット出版社

年間目標：

- ・自分を取り巻く社会問題や世界について関心を持ち、相手と共有し、提案を伝えることができる。

既習の語彙と文法の知識を融合するために、パフォーマンス課題、プレゼンテーション、音読、生徒同士のコミュニケーションを通して生徒からのアウトプットを促し、DELFB1に特に必要な思考力、分析能力、判断力を段階的に育成することを目指す。

資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
A2 以上レベルのテーマについて論じることが出来る。	DELFA2～レベルに必要な語彙、表現、思考力、アウトプットの多い授業を行い、身近な話題や活動について話し合いが自然な発音とイントネーションで発話できることを目標としている。	言葉は人とコミュニケーションをとるための道具であることに意識を持つ。道具の量が増えれば増える程コミュニケーションがとりやすくなる。グループワークにフォーカスする教科書を使うことによって、人とコミュニケーションを通じて協働する大切さを学ぶ。

単元指導案

1. 単元名 小説を元に演劇を作ろう
2. 言語名 フランス語
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
既習の単語と小説の単語や表現	小説の内容を大まかに理解し、演劇を作るために必要な単語や表現を適切に選ぶ判断力。	課題を分担し、互いに助け合うことができる。

4. 社会と文化への気づきのポイント

小説のテーマである「自由」とは何かについて考えるきっかけを与える。

5. 他教科・他科目との連携

6. パフォーマンス課題

授業中に読んだ La ville souterraine (「地下の都市」) という SF 小説を元にして演劇を作る。
監督の仕事を経験する。

7. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別学習状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
小説を読んで理解することができる。 演劇に転換したときに設定に合う語彙を使うことができる。	小説の一部の内容やテーマを伝えるための単語を選んだり、削ってもいい部分を判断したりできる。ストーリーの最も重要な単語やフレーズを適切に使える。 演じるシーンに正しく感情を込めることができる。	小説に書いてあるままの文章を使わず自分の言葉で言い換える努力をする。 グループの中でお互いのことを尊重し支え合うことを大切にする。	自分のパフォーマンスをやることで、小説のテーマの理解を深める。仲間のパフォーマンスを観て、新たなストーリーの側面に気づく。 協働作業を通じて、達成感を味わうことができたか。

8. 指導と評価の計画（単元の指導と評価の展開）（単元案）

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	夏休み宿題として出されていた小説の各章の要約を確認し話し合う グループ分け それぞれ違う部分を選択させる	【知識・技能】 既習単語や表現を理解しているか 【思考力・判断力・表現力等】 わかりやすく相手に伝えることができるか	教員とのやり取り 宿題のチェック
2	原稿チェック、発音の練習	【知識・技能】 必要な単語が含まれているか イントネーションが正しいか 【思考力・判断力・表現力等】 ストーリーのポイントが伝わるか	原稿チェック 教員とのやりとり 生徒間のやりとり
3	リハーサル	【知識・技能】 内容を理解しながら演じているか 【思考力・判断力・表現力等】 内容をうまく伝えることができるよう イントネーション、表情などを支えているか	生徒間のやりとり（相互フィードバック）
4	パフォーマンス本番	【知識・技能】 内容を理解しながら演じているか イントネーションが正しいか 【思考力・判断力・表現力等】 内容をうまく伝えることができるよう イントネーション、表情などを支えているか	生徒間のやりとり 生徒間のやりとり

9. 研究授業の対象となる授業の指導案（研究授業の45分をどう使うかを書いてみてください）

時	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	（挨拶、祈り）、 流れの説明	流れの理解を確認する 感想アンケート（自己評価）を記入するためにiPadを配布する。	観察
5	練習	各グループの練習子を観察しながらアドバイスをしたり、発音をなおしたりする。	観察

30	各グループ発表	各グループの発表を行う。準備時間を入れたら、予想していた各グループ5分はかなりオーバーしてしまう。	観察、メモを取りながら20点分の評価を付ける。 発表前にロイロノートで配信された生徒の感想アンケートを確認して、点数を確認する
5	コメント、感想	全体的に感想を話す	コメント

10. 補足事項

第一部

1. 学校名：神奈川県立藤沢総合高等学校
2. 授業名：スペイン語発展（後期のみ2単位）
3. 担当者：奥村 サラ、小関 博子、佐々木 亮太
4. クラスの概要：高校2，3年生15名（男2名・女13名）既習者なし。
5. 生徒の学習動機：スペイン語に興味があるため。単位取得のため。
6. 使用教科書：Gramañol（グラマニョール）－文法中心スペイン語総合学習教本－
(株式会社朝日出版、2017)
7. 年間目標：

スペイン語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、スペイン語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝えあうなどのコミュニケーションを図る。またスペイン語の背景にある社会や文化、スペイン語圏の国々で生きる人の考え方や価値観に触れることで、他国の文化や社会を理解する。

資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
・スペイン語の音声や語彙、表現、文法などを理解するとともに、その知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによって実際の使用場面において活用できる技能を身に付ける。	スペイン語での発表、会話、インタビューなどのコミュニケーション活動を行い、日常的な話題や社会的な話題について情報や考えなどを言ったり、理解したり、伝えあう力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、今後の考えや生き方に役立てる。また、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第二部

単元指導案

1. 単元名 Lección 5 Vives sola, ¿verdad? (君は一人で住んでいるよね?)
2. 言語名 スペイン語
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞を適切に使い分けすることができる ・一般動詞の現在形の活用とその意味を学ぶことによって日常会話の簡単なフレーズを使用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰との会話を想定して、会話文を作成しているか判断し、適切な表現を作ることができる。 ・実際の使用場面において、相手との会話を自然にやりとりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい表現に対して興味を持ち自新たに身に付けた力を理解できる。 ・上手に表現できることや表現に失敗する経験などを通して、活動を振り返り、次の単元への工夫につなげることができる。

4. 社会と文化への気づきのポイント

本単元の内容では ser 動詞に引き続き、動詞の活用は主語により、6パターンに分かれることを学ぶ。スペイン語特有の動詞の形で主語が判別できることを確認し、日本語との比較から言語文化への関心を高めたい。

5. 他教科・他科目との連携

- ・1年次：産業社会と人間 単元名「他者とのかかわりを考える」職業人インタビュー
産業社会と人間 単元名「1年間をまとめる」成果発表会
- ・2年次：総合的な探究の時間（課題研究） 中間報告、クラス内発表等

6. パフォーマンス課題

—あなたはどこに住んでいるの?—

スペインからTV局の人が来て、日本人の生活についてスペイン語でインタビューされる。

そのインタビュアー役と日本人役でやりとりをする。

7. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
疑問詞の使い方を理解している。一般動詞の現在形の活用とその意味を学ぶことによって日常会話の簡単なフレーズを使用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰との会話を想定して、会話文を作成しているか判断し、適切な表現を作っている。 ・実際の使用場面において、相手との会話を自然にやりとりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい表現に対して興味を持ち自新たに身に付けた力を理解している。 ・上手に表現できることや表現を失敗する経験などを通して、活動を振り返り、次の単元への工夫につなげるようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な外国語学習（主体的に取り組めたかどうか）。 ・学習言語の積極使用

8. 指導と評価の計画（単元の指導と評価の展開）（単元案）

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	・本単元の目標を理解する。 ・-ar 終わりの規則変化動詞の活用を理解する。	【知識・技能】 主語に合わせて-ar 動詞を適切に活用している。	ペーパーテスト（小テスト）
2	・-ar 動詞の簡単なフレーズの音読をペアで練習する。 ・教科書の Lección4の本文を理解する。	【知識・技能】 -ar 動詞の活用が定着している。	（記録に残す評価は行わない、生徒の活動を確認、観察する。）
3	・Lección4の本文を音読する。 ・-er 終わりの規則変化動詞の活用を理解する。	【知識・技能】 ・主語に合わせて-er 動詞を適切に活用している。 ・スペイン語のリズムと音声を意識して音読している。	ペーパーテスト（小テスト）
4	・-er 動詞の簡単なフレーズの音読をペアで練習する。 ・3つの疑問詞を理解する（Qué, Quién, Dónde）	【知識・技能】 -er 動詞の活用が定着している。	（記録に残す評価は行わない、生徒の活動を確認、観察する。）
5	・-ir 終わりの規則変化動詞の活用を理解する。 ・疑問詞の復習	【知識・技能】 主語に合わせて-ir 動詞を適切に活用している。	ペーパーテスト（小テスト）
6	・-ar, -er, -ir 動詞の復習をする。簡単なフレーズを使って会話をしながら復習する。 ・疑問詞と今まで学習してきた動詞を組み合わせ文を作ってみる。	【知識・技能】 -ir 動詞の活用と疑問詞が定着している。	（記録に残す評価は行わない、生徒の活動を確認、観察する。）
7	・教科書の Lección 5の本文を理解する。 ・Lección 5の本文を音読する。	【知識・技能】 スペイン語のリズムと音声を意識して音読している。	（記録に残す評価は行わない、生徒の活動を確認、観察する。）
8	・-ar, -er, -ir 動詞の復習をする。 ・今まで習った動詞を用いてプレゼンテーション原稿の作成をする。	【知識・技能】【思考・判断・表現】 学習した動詞を活用して文を作っている。	成果物（ワークシート）
9	・原稿の作成を続ける。 原稿のチェックをする。 ・発表活動に向けたペアでの練習をする。	【学びに向かう人間性】 ・発表を想定して積極的にペアで練習をしている。	（記録に残す評価は行わない、生徒の活動を確認、観察する。）

10	<p>・プレゼンテーションを行う。</p> <p>・パフォーマンス課題に向けての説明と準備を行う。</p>	<p>【学びに向かう人間性】</p> <p>【知識・技能】</p> <p>・堂々とスペイン語を使用することと既習事項が実用と結びついている。</p> <p>評価項目</p> <p>①態度 ②発音の正確さ ③準備努力と流暢さ ④成果物（プレゼンテーション用シート）</p>	<p>実技試験（ルーブリック評価）</p> <p>成果物（プレゼンテーションシート）</p>
11	<p>・簡単な一般動詞のやりとりの活動</p> <p>・インタビュー質問文の練習</p>	<p>【学びに向かう人間性】</p> <p>・当日のパフォーマンスを想定して積極的にペアで練習をしている。</p>	<p>（記録に残す評価は行わない、生徒の活動を確認、観察する。）</p>
12	<p>・一般動詞を用いた講座内での質問練習</p> <p>・インタビューの練習</p>	<p>【学びに向かう人間性】</p> <p>・当日のパフォーマンスを想定して積極的にペアで練習をしている。</p>	<p>（記録に残す評価は行わない、生徒の活動を確認、観察する。）</p>
13	<p>・インタビュー課題の実施（本時）</p> <p>・振り返りシートの記入をする。</p>	<p>【学びに向かう人間性】</p> <p>・積極的にスペイン語を使用している（使用に対する意欲と態度。その言語を堂々と使用しているか、自然な会話を展開しようとしているか）</p> <p>【知識・技能】【思考・判断・表現】</p> <p>・スペイン語の音声を意識して会話ができています。</p> <p>・正確な動詞の活用で使用ができています。</p> <p>○使用場面</p> <p>スペインからの TV 局の人にスペイン語で日本の暮らしについてインタビューされる。</p> <p>○パフォーマンス</p> <p>スペイン人役と日本人役を交互に行う。</p> <p>○評価</p> <p>事前に生徒にはクロームブックでの録画の許可をとり、やりとりを録画する。のちに担当教員で動画を見て評価をする。</p> <p>○形成的評価</p> <p>終了後に振り返りシートを記入する</p>	<p>パフォーマンス評価（ルーブリック）</p>
14	<p>・本単元の学習内容の復習をする。</p>	<p>【学びに向かう人間性】</p> <p>・本単元の内容を理解し、自発的・意欲的に学習ができた。</p> <p>・発表の自己分析・ペア分析をし、次回の単元での課題をまとめる。</p>	<p>成果物（振り返りシート）</p>

9. 研究授業の対象となる授業の指導案

時	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
15	・本時の流れと発表活動の目標・評価観点の確認をする。 ・発表前の最後のリハーサルでペア練習及び確認をする。	(特になし)	生徒の準備の観察(記録に残す評価は行わないが、必要に応じて生徒の活動を支援する)
20	・順番にペアで会話を発表する。	【学びに向かう人間性】・【知識・技能】 ・スペイン語の使用態度 ・スペイン語のリズム・音声の意識 ・使用表現の正確さ	・ルーブリックを用いて発表を評価する(撮影可能な生徒は事後)
15	・本時の発表についてまとめる(振り返りシートに活用できる記録を書く)。	【学びに向かう人間性】 本時の発表に向かうまでの過程と発表の自己分析をしている。	成果物(振り返りシート)

10. 補足事項

本単元は疑問詞と一般動詞の使用がメインの知識・技能である。中学校の時に学習する英語の動詞の活用とは全く違い、新たな価値観や言語観を学びながら使用へつなげていくことが重要である。その中で日常的な話題である「どこに住んでいるか?」「何を食べているか?」など基本的な表現を使用できる能力の育成とその技能の習得までに自身が何を工夫し、何が課題であったかを考える授業展開になっている。

発表場面では失敗を意識して使用が滞ることを避けたいので評価にはかかわるものの失敗を恐れずスペイン語を使用する環境を作る意識をする。また失敗したとしてもその失敗を次回に向けての課題として整理し、生かしていく意識を芽生えさせたい。

活用パターンが多いので丁寧な説明と繰り返しの練習をしていき、3つの規則変化動詞が混ざったときに区別できるようにスペイン語に対する理解と馴染むきっかけとなる単元である。今後、生徒がスペイン語学習を継続していく際に命令形や点過去・線過去等、活用の多さが影響するのでスペイン語学習の肝要な要素であると考えている。

将来、思い描く生徒像として、スペイン語の学習を今後も続けていくような生徒、大学で第2外国語でスペイン語を履修しようとする生徒になってほしいという思いがある。また、スペイン語学習がきっかけになり、スペイン語だけでなく多言語への関心や、英語に対する関心が増してほしいという思いもある。

スペイン語発展 発表(作文、プレゼンテーション)事前準備シート

①今回の目標

【今回の目標や使用表現内容】

- ・スペイン語でいままで学習した動詞を使うことができる。
- ・スペイン語の疑問詞を適切に使うことができる。
- ・発表を通して達成感や口惜しさを感じることができる。

②今回のパフォーマンス

あなたは横浜駅(藤沢駅)の周辺を歩いているとスペインから来た TV 局のスタッフにインタビューのお願いをされます。内容は日本での生活についての基本的な質問をされます。あなたはどのように答えるでしょうか？またスペインから来た TV 局のインタビュアーにならないうように質問をしましょう？



○上記の目標と内容について率直な意見を書いてください(難しいそう、達成できるか不安、新しく学ぶ内容が楽しみ、あんまりやる気が出ない・・・など)

○なぜ上記のような意見考えたのですか。

新しいことで難しいかもしれませんが、くじけずに一歩ずつ頑張りましょう！！

4ケタ番号() 名前() 日付()

スペイン語発展 発表(作文、プレゼンテーション)振り返りシート

4ケタ番号() 名前() 日付()

①今回の発表活動の目標や目的は理解できましたか。

はい・いいえ

※わからなかった人はもっとどうしてほしいか、また自身はどう動いていくべきか書いてください。

--

②今回の発表に至るまでの準備に対する自己評価

良い 悪い

A・B・C・D

上記の自己評価を判断した理由

--

③今回達成・満足できたことを書いてください。

--

④今回うまくいかなかった点、もっとこうの方がよかったというアイデア

--

これは次回への課題と工夫につなげましょう！！

⑤今回の発表を通しての感想(実施前と実施後の自分の能力や心境の変化、または充実度など)

--

ほかのペアのやり取りと見た感想を書きましょう！

ペア①	()さん ()さん	
ペア②	()さん ()さん	
ペア③	()さん ()さん	
ペア④	()さん ()さん	
ペア⑤	()さん ()さん	
ペア⑥	()さん ()さん	
ペア⑦	()さん ()さん	
ペア⑧	()さん ()さん	
ペア⑨	()さん ()さん	
ペア⑩	()さん ()さん	

ここから指導案とあまり関係がありません。

【藤沢総合高等学校のスペイン語講座での佐々木の取組】

佐々木は2019年（日比野先生が深沢高校に異動したのと同年）の4月に藤沢総合高等学校に英語科として赴任し、その年はスペイン語は持っていません。本校のスペイン語の体制はネイティブのペルー人の非常勤講師とスペイン語に堪能な日本人の非常勤講師が主にメイン担当として授業づくりや授業内容を説明をしています。そこに英語科の職員がTTとして入り一緒に授業をしていくという体制です。2020年よりスペイン語入門（半期2単位週4時間）とスペイン語発展（半期2単位週4時間）を受け持つこととなりました（大学時代にスペイン語の単位をおおく履修していたため）。その中で佐々木の役割はネイティブスピーカーの先生と生徒に合わせた授業づくりの相談と具体化、そして他の講座の英語科教員に授業内容の周知をすることです。またネイティブと日本人非常勤の先生が行う実技試験やペーパー試験の評価方法の確認やまたその評価点数の成績への落とし込みと調整もしています。2021年度より、2020年度と一緒に組んでいた英語科教員が異動してしまい、スペイン語について何も知らない英語科教員とともに共有し、授業を進めている最中です。授業の展開数と担当は次の通りです。

1 講座目

スペイン語入門（前期）非常勤（ネイティブ、日本人）＋今年からスペイン語を持った英語科教員 A

2 講座目

スペイン語入門（前期）非常勤（ネイティブ）＋佐々木

3 講座目

スペイン語入門（前期）非常勤（ネイティブ、日本人）＋今年からスペイン語を持った英語科教員 B、C

4 講座目

スペイン語入門（後期）非常勤（ネイティブ、日本人）＋今年からスペイン語を持った英語科教員 A

5 講座目

スペイン語発展（後期）非常勤（ネイティブ、日本人）＋佐々木

6 講座目

スペイン語発展（後期）非常勤（ネイティブ、日本人）＋今年からスペイン語を持った英語科教員 B、C
よって、佐々木はスペイン語の専門非常勤と授業づくりと評価方法の検討、3名の英語科教員と授業内容の共有と説明を毎週しています。

第一部 藤沢総合高等学校における「中国語発展」の概要

1. 学校名：神奈川県立藤沢総合高等学校
2. 授業名：中国語発展（後期のみ2単位）
3. 担当者：潮田 央
4. クラスの概要：25人。2、3年生共修。全員が中国語入門（2単位）を履修済み。
5. 生徒の学習動機：中国語に興味があるため。単位取得のため。
6. 使用教科書：『標準高校中国語』第三版（白帝社、2016）
7. 年間目標：

中国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図り、中国語及びその背景にある文化や社会、中国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、自他の文化や社会を理解する。

8. 資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	中国語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、日常的な話題や社会的な話題について、中国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第二部 単元指導案

1. 単元名 ビデオレターで文通しよう
2. 言語名 中国語
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
・移動に関することや、目的地の地理を紹介することについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。	・聞き取った友人の話を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現したりする。	・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとする。

4. 社会と文化への気づきのポイント

日本の首都圏の地理や観光地を外国人に伝えることで、自文化について客観的に考える。

5. 他教科・他科目との連携

- ・1年次：国語総合 単元名「自己紹介をしよう」(スピーチ)
産業社会と人間 単元名「他者とのかかわり方を考える」職業人インタビュー
- ・2、3年次：総合的な探究の時間(課題研究)
- ・3年次：国語表現 単元名「プレゼンテーションをしよう」

本校は総合学科であるため、発表活動に力を入れており、どの科目でも発表の機会を多く設定している。とくに、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」は基幹科目であり、学習活動の総まとめの科目であり、発表に関する学習で身に付いた力を伸ばす場となっている。

6. パフォーマンス課題

来日する中国の大学生から送られて来たビデオレターの内容に基づき、東京・上野への行き方、所要時間、金額、一緒に食べたいもの、日本の美術品とその魅力について相手に伝える内容のビデオレターを撮影する。

7. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
・移動に関することや、目的地の地理を紹介することについて、	・聞き取った友人の話を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現し	・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当	・自律的・自覚的な外国語学習。 ・学習言語の積極的使用。

語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付けている。	たりしている。	地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとしている。	・中国語の学習を楽しもうとする態度。
--	---------	--	--------------------

8. 指導と評価の計画（単元の指導と評価の展開）（単元案）

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	・本単元の目標を理解する。 ・教科書の例文等を参考に、移動に関わる語彙や表現を理解する。	【知識・技能】 移動に関する語彙や表現（交通機関、金額、時間の伝え方）を理解している。	ペーパーテスト（6次）
2	・移動に関する語彙や表現を使い、ペアやグループで会話する。	【知識・技能】 移動に関して相手の話したことを聞き取ったり、自分のことを話したりする技能を身に付けている。	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する）
3	・友人からのビデオレター見て、内容を理解する。	【思考力・判断力・表現力等】 相手の質問を聞き取り、その意図をくみ取っている。	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する）
4	・返答のために、必要なことを調べる。 ・友人からの返答のために、必要なことを調べる。ビデオレターに基づき、返答をまとめる。	【思考力・判断力・表現力等】 ビデオレターを返信するために、移動の方法を提案したり、自分の考え的確に表現したりしている。	原稿の分析。
5	・友人へのビデオレターを撮影する。	【思考力・判断力・表現力等】 聞き取った友人の意見を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現したりしてビデオレターを撮影している。	パフォーマンス評価（ルーブリック）。
6	・学びの内容を点検するため、ビデオレターを相互に評価したり、振り返りを通して自分の考えを見直したりす	【主体的に学ぼうとする態度】 ・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとしてい	振り返りシートの分析。

る。 (この他に、1次・3次のペーパーテストを実施)	る。	
-------------------------------	----	--

9. 研究授業の対象となる授業の指導案

時	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	・目標や本時の流れを確認する。	(なし)	
10	・プリントに基づき、作業の内容を理解する。	【知識及び技能】 ・発表に必要な、移動に関する語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。	生徒の学習活動の観察 (ただし、記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
15	・班に分かれて、返答のために、必要なことを調べる。	【思考力・判断力・表現力等】 相手のことを考えながら、ビデオレターを返信するために、移動の方法や魅力について調査する。	プリントの点検
10	・調べたことを元に、原稿を作成する。	【思考力・判断力・表現力等】 自分たちの意図に基づいた内容であるか確認するとともに、必要に応じて修正している。	生徒の学習活動の観察 (ただし、記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
5	・原稿を読み上げる練習をする。	【思考力・判断力・表現力等】 ビデオレターを返信するために、移動の方法を提案したり、自分の考え的確に表現したりしている。	生徒の発表内容や発音の確認
5	・本日の学習活動をまとめる。	【主体的に学ぼうとする態度】 前後の学習時間と、本時との関連を考え、自分の中で本時の活動を整理しようとしている。	振り返りシートの分析

10. 補足事項

ビデオレターを使った文通のような活動をする単元である。

文通は文字によってやりとりする活動であったが、時代に合わせビデオレターを使用することとした。ビデオレターという媒体は、受信側の時には聞き取りに難があっても、何度も聞き直すことができ、分からない箇所は、動画を止めて辞典で調べたり、翻訳アプリを用いたりして内容を理解することができる。また、発信側の時には調べた内容を入れたり、話す内容を検討したりでき、翻訳アプリを使用することで未習の内容を盛り込むことも可能である。そのため、音声によるやり取りではあるが、会話のように即自的な対応が必要というわけではない。よって、初級者であっても普通の会話ではできないようなコミュニケーションをとることができることを期待している。

もともと、中国語圏ではテンセント社の微信 (WeChat) が主流のSNSである。日本で多く使われる

LINE 社と同じ機能が多いが、なかでも中国語圏特有の現象として、「音声送信」(ボイスチャット)を使用することが多い(LINE では「ボイスメッセージ」に相当する)。映像の含まれるビデオレターではあるが、ビデオレターでのやり取りは音声送信に近い効能があり、実際に中国語圏の人とやり取りをするときに参考となるだろう。

ビデオレターのストーリーは次のとおりである。

SNSを通じてできた中国人の友人が東京に遊びに来ることになる。その友人は、

- ・12月5日に成田空港に来る。
- ・成田から東京に行きたい。
- ・日本の美術品を博物館で見たい。
- ・成田空港からその場所までの行き方、乗り物、その金額、所要時間を知りたい。
- ・おすそめを教えてもらいたい。
- ・お昼を一緒に食べたい。

ということをビデオレターで伝えてきた。この内容を的確に聞き取り、相手の意図をくんだビデオレターを作成することが今回の活動の中心である。単元の前半では、移動に関する表現や、場所や施設について紹介する表現を学習する。後半では、相手の意図を読み取りそれにこたえる方法を考えることで思考を深める。当然、相手の趣向を想定することも必要である。

相手方のビデオレターについては、中国語ネイティブに上記の内容に基づいて話してもらおう。授業で公開する際には、Google ドライブで生徒と共有し、内容を何度も確認できるようにする。撮影は生徒の持つスマートフォンで行い、時間は1分30秒程度とする。撮影したビデオレターはClassroomで提出を求める。集めたものは生徒と共有することも、評価の材料とすることも可能である。

ビデオレターの撮影はこの単元だけでなく、ここまでに二回行っている。ルーブリックの表現を変えながら、活動を重ねることで上達に気づけるような工夫、評価の在り方を模索している。

なお、ビデオレターによって文通するという言語活動は、学習の計画に左右されず、多くの単元で活用することが可能である。例えば、その時々学んだことを使いやり取りをする機会となるだろう。

「デジタルネイティブ世代」と呼ばれる現在の高校生に、ICT機器を中国語の学習でも用いることで、発想を広げ、学習の新たな可能性を見出すだろう。

文部科学省委託事業

「令和3年度・教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」

横浜市立みなと総合高等学校 中国語会話Ⅰ 研究授業

実施日：2021年11月19日（金）14：25～15：45

学校名：横浜市立みなと総合高等学校

授業名：中国語会話Ⅰ

担当者：温 悠

クラスの概要：高校一年生16名（女子、既習者1名）、週に二回火曜日2校次と金曜日6校次に授業

学習動機：親の母語が中国語のため、親と中国語で自分のことを話せるようになりたい。

将来ビジネスで役に立つので話せるようになりたい。

好きなアイドルが中国人なので中国語に興味を持った。

アルバイト先に中国人がいるので中国語を話せるようになりたい。

1、年間目標：

- ① 国際交流の場において、自己紹介・買い物・食事などの話題を自ら提示して会話しようとする。
- ② 中国の文化への関心を持つとともに、自文化を深く理解して、既習事項の中国語の音声、語彙、文法を用いて文章を書く。
- ③ 既習事項の中国語を用いてどのように会話するか想像し、状況に応じて相手とのやりとりの方法を考え、場面に適した会話をすることができる

2、パフォーマンス課題：

1. 単元名 交流会を企画し、中国人と中国語でやりとりしよう
2. 言語名 中国語で交流会
3. 単元の目標 （資質・能力の3つの柱）

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
学んだ単語の発音を言える。文法を的確に、例えば、動詞述語文、形容詞述語文などを多くの文法事項を豊富に使え、中国語の質問に応えることができる。	国際交流をするのに必要な準備、国際交流の具体的なイメージを膨らます、国際交流を実践するには、どんな方法があるかを思い起こすことができる。	国際交流をするために中国語を簡単な文章や言葉からより複雑な自分の思いを表す文章に挑戦しようとする。自分の考えをまとめ伝えようとする。

3、パフォーマンス課題の流れ：

- ①11月2日（火）自己紹介見本文を日本語に訳してみる
- ②11月5日（金）見本文の日本語訳。交流会で自己紹介するにはどんな言い回しが適切か
（自己紹介・名前・学年・住まい・誕生日・好きなこと嫌いなこと
[授業・音楽・本・アイドル・食べ物]・学校名・家から学校までの時間・
家族構成・行きたいところ）
- ③11月9日（火）既習文法の確認・一緒に文作り・聞き取り練習
- ④11月12日（金）文作り・聞き取り練習・発音練習
- ⑤11月16日（火）発表文発音練習
- ⑥11月19日（金）6校次発表（本時）
- ⑦11月19日（金）放課後15：15～15：45交流会（本時）
- ⑧11月26日（金）言えた単語、通じた単語、聞き取れた単語、交流について
ルーブリックを用いて自己評価

4、ルーブルリック

パフォーマンス課題全過程に対するルーブリック

年間目標と対応	5	4	2	1
発音 ②	全文を正確に発音できる	全文を正確ではないが発音できる	全文を発音できないところはあるが少し発音できる	全文を全く発音できない
聞き取り ③	交流相手が話す短文を全て聞きとれる	相手の話す言葉を単語で聞き取れる	動詞や名詞の音を一字以上聞き取れる	音を全く聞き取れない
文章 ②	既習事項を十分に用いた文章を書ける	少し間違うが既習事項を用いた文章を書ける	既習事項をあまり使えないで文章を書ける	既習事項を全く使えず文章を書く
話す ① ③	自分が話す場面で、相手に伝わるように話せ、通じる	自分が話す場面で、相手に伝わるように短文で話せる	自分が話す場面で、相手に伝わるように単語で話せる	自分が話す場面で、全く話せない
話す（発表） ① ③	自分から積極的に中国語で話す	自分から少しずつ中国語で話そうとする	間違いがあるが中国語で話そうとする	中国語で話そうとしない

5、6 2021年11月19日（金）本時の流れ

時間	本時の内容	生徒の活動注意点	教員の注意事項
20分	挨拶・出席確認 ルーブリック配布、活動の意識 本時の授業内容の説明 ・発音練習・聞き取り練習 ・グループを三つ（4人～5人）わけ ・発表の青写真を想像する（1分） ・グループ活動 グループ内で作成文の発表をしあう	起立・着席 発表時大きな声を出す。 前を向けているか 紙や翻訳アプリなど 様々なアイテムを有効 にしようとするか	生徒が活動内容を理解 できたか観察して確認 する。 生徒が自主的に発言で いるよう（翻訳アプリ や質問方法を具体的に アドバイス）
8分	・グループを再度メンバーチェンジ ・発表のイメージを膨らませます（1分） ・グループ内で発表 ・互いに質問をしあう	発表者の中国語を聞き 取れたかどうか 進んで相手に話そう としているか	文章ポイントを話せて いるか。 発表文を読めているか
5分 5分	グループ内で活動 ・発表文を使ってフリートーク	中国語を使ってやり とりをする 話せない時はどんな 方法を用いて話そう とするか	発音がどの程度正確言 えているか。相手の発 音をどの程度聞き取れ るか観察

6、7 交流会の流れ

時	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	自分たちでグループ 分け・交流方法を説 明	中国語を正確な発音で話せているか 相手にわかりやすい説明か 中国語が相手に通じているか 言い回しは的確か	自己評価 相互評価
20	交流活動	相手につたえようとしているか 聞く（相手の名前、年齢、家族構成、誕生日、好きなことを聞き取れるか、聞き取った発音を覚えているか） 話す（相手に通じるように発音するやりとりをする）	ルーブリック
5	課題について説明	ルーブリック・自己評価・相互評価について説明	自己評価

7、本時に対するルーブリック（発表・交流会）

発表時自分が思う文章やポイントを話せる	よく話せた	少し話せた	あまり話せない
発音について	よくできた	少しできた	あまりできない
文法のポイントを話せる	よく話せた	少し話せた	あまり話せない

交流会時中国語について	よく使えた	少し使えた	あまり使えない
-------------	-------	-------	---------

第一部 神奈川県立平塚江南高等学校における「コミュニケーション英語Ⅰ」の概要

1. 学校名：神奈川県立平塚江南高等学校
2. 授業名：コミュニケーション英語Ⅰ（4単位）
3. 担当者：辻 祐哉
4. クラスの概要：40人（1年生）
5. 生徒の学習動機：必修科目
6. 使用教科書：『Revised ELEMENT English CommunicationⅠ』（啓林館）
7. 年間目標：

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図り、英語及びその背景にある文化や社会、英語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、自他の文化や社会を理解する。

8. 資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	英語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第二部 単元指導案

1. 単元名 Lesson 5 Umami

2. 言語名 英語

3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
レシピを書いて伝えるために必要となる語彙や表現を理解する。 食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝える技能を身に付ける。	読み手に「食べてみたい」と思ってもらえるように、食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝える。	読み手に「食べてみたい」と思ってもらえるように、食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝えようとする。

4. 社会と文化への気づきのポイント

食に対する様々な価値観に気づき、多様な文化について理解する。

5. 他教科・他科目との連携

- ・家庭科
- ・現代社会、倫理

6. パフォーマンス課題

オンライン交流で海外の高校1年生とメールでの交流をしています。「英語の授業で今、何を勉強しているのか」と聞かれたあなたは、「Umami について勉強している」と返信しました。すると、「Umami を堪能できる料理は何があるか？それを作って食べてみたいから、レシピを教えてくださいませんか？」とお願いがありました。彼（彼女）が Umami を堪能できる料理のレシピを作ってください。

7. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状 況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
レシピを書いて伝えるために必要となる語彙や表現を理解している。 食について、情報や考	読み手に「食べてみたい」と思ってもらえるように、食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝えている。	読み手に「食べてみたい」と思ってもらえるように、食について、情報や考え、気持ちなどを、理由	思いやり

え, 気持ちなどを, 理由とともに書いて伝える技能を身に付けている。		とともに書いて伝えようとしている。	
------------------------------------	--	-------------------	--

8. 指導と評価の計画（単元の指導と評価の展開）（単元案）

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	語彙・文法	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
2	文法・導入	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
3	Part 1	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
4	Part 2	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
5	Part 3	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
6	Part 4, まとめ	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
7	ゴールタスクの導入	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
8	ゴールタスク, 共有	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	成果物（ルーブリック） 振り返りシートの記述

9. 研究授業の対象となる授業の指導案

時	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
10	・モニターに表示したレシピを見て 何の料理ができるのかペアまたはグループで推測する。 ・その料理に関してペアで会話をする。	(なし)	
20	・レストランメニューの見方や表記を考える。 ・Vegan や free-range など、食に関する多様な価値観について理解を深める。	(なし)	生徒の学習活動の観察 (形成的評価)
30	・複数のレシピを参考にし、レシピの作成に活用できるような表	(なし)	生徒の学習活動の観察 (形成的評価)

	現をペアで確認する。 ・Chromebook を用いて、レシピを作成する。		
5	・本時の学習内容について振り返りシートに入力する。	【主】授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	生徒の学習活動の観察

10. 補足事項

パフォーマンスタスク（レシピ作成）のルーブリック

	理解のしやすさ【知技】 (通じる英語を書いているか)	適切さ【思判表】 (提示するレシピとしてふさわしいか)	意欲・態度【主】 (よりよいレシピ作成を心がけているか)
◎	ほぼ正確な英文を書いている。	交流相手にふさわしい料理のレシピを作成している。	交流相手にふさわしい料理のレシピを作成しようとしている。
○	多少の誤りはあるが、伝わる英文を書いている。	交流相手への料理のレシピを作成している。	交流相手への料理のレシピを作成しようとしている。
△	伝わらない英文が見られる。	交流相手への料理のレシピを作成していない。	交流相手への料理のレシピを作成しようとしていない。

第1回ワークショップ資料 (1)

慶應義塾大学外国語教育研究センター主催
「多様な外国教育に取り組む教師向けワークショップ

ー来年度の授業計画を立ててみるー」 第一回目

グローバル化に対応した外国語教育推進事業と 指導案様式の提案

- ・教育再生実行会議第3次提言(2013.5.28)
- ・第2次教育振興基本計画(2013.6.14)
- ・グローバル化に対応した英語教育改革実施計画(2013.12.13)
- ・英語教育の在り方に関する有識者会議報告(2014.9.26)

文部科学省 外国語関連事業

	英語	2外
2014～	外国語教育 強化地域拠点事業	外国語教育 強化地域拠点事業
2017		
2018	英語関連諸事業	グローバル化に対応した
2019		外国語教育
2020		推進事業

中央教育審議会答申
2016

2020：慶応事業に移行→2021：文科委託復活→2022：継続決定→→→

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）
2016（平成28）年12月21日中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm

iv) 英語以外の外国語教育の改善・充実

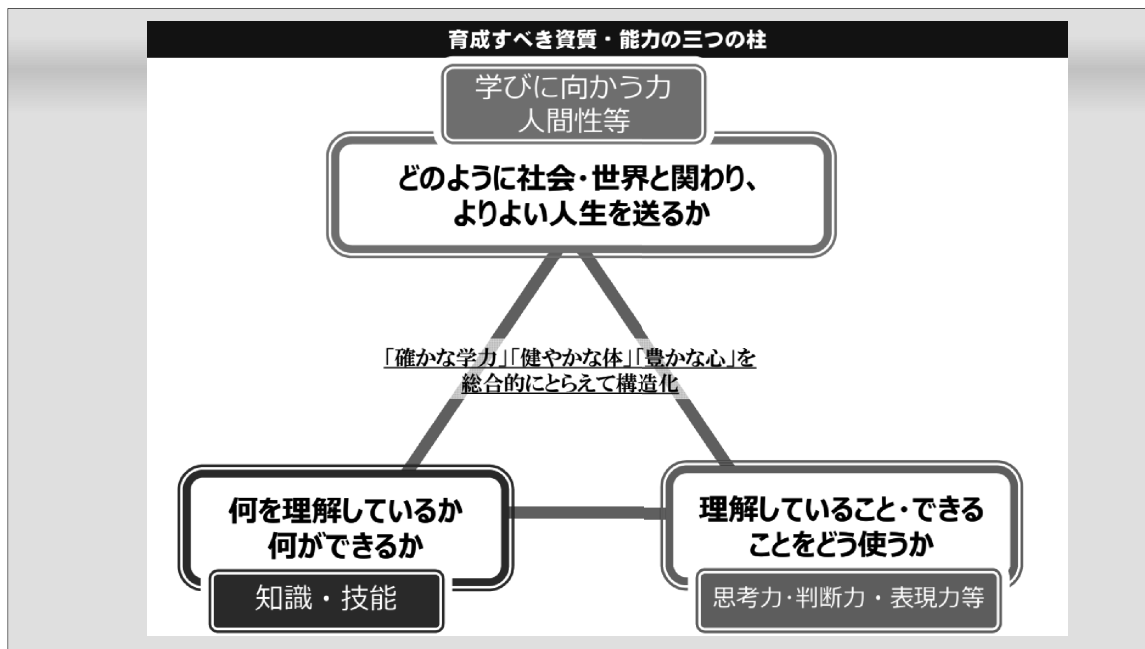
- グローバル化が進展する中、
- 日本の子供たちや若者に多様な外国語を学ぶ機会を提供することは、言語やその背景にある文化の多様性を尊重することにつながるため、
- 英語以外の外国語教育の必要性を更に明確にすることが必要である。
- また、学習指導要領の改訂に向けて、
- 外国語教育における領域別の目標を設定して作成するカリキュラムの研究や研修、教材開発などの取組について支援することが求められる。

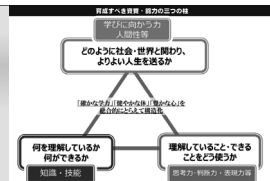
● 第1款 高等学校教育の基本と教育課程の役割

1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性等、課程や学科の特色及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にし、教育活動の充実を図るものとする。その際、生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を^{かん}涵養すること。





主文

①生きて働く
知識・技能の習得

②未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力の育成

③学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

第8節 外国語

第1款 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

指導案様式の開発 & 提案

- 授業の概要
- 年間指導案
- 単元指導案
- (授業指導案)

■授業の概要

1. 学校名:
2. 科目名:
3. 単位数:
4. 担当者:
5. クラスの構成: 高校〇年生 〇名(男〇名・女〇名)
6. 生徒の概況:
7. 使用教科書:

■年間指導案

1. 年間目標:

習得できる知識・技能の習得	本時の授業にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養

2. 単元構成:

月	単元名	備考

■単元指導案

1. 単元名
2. 単元の目標

習得できる知識・技能の習得	本時の授業にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養

3. 社会と文化への気づきのポイント
4. 総論科・他科目との連携
5. パフォーマンス課題
6. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に学びようとする態度	一人ひとりの生徒のよき声・行動性・態度の涵養

→観点別学習状況評価 →個人的评价

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1			
2			
3			

■授業の概要

1. 学校名:
2. 科目名:
3. 単位数:
4. 担当者:
5. クラスの構成:
6. 生徒の概況:
7. 使用教科書:

2単位 = 50分 × 週2回日
or
2単位 = 50分 × 2コマ連続 × 週1日

常勤? 非常勤?
他教科の担当あり? なし?

何年生?
人数?
男女比率?

学習動機は?
取り組み状況は?

■年間指導案

1. 年間目標:

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
-------------------	--------------------------------	------------------------------------

2. 単元構成:

月	単元名	備考

① 1年間の授業における学習活動を通して生徒に身につけてほしい能力、態度などを記述する
←ご自身の経験&学習指導要領をもとに

② ①を3つの柱ごとに分けて記述する
←学習指導要領を参考に

年間
 単元 単元
 授業 授業 授業 授業 授業 授業

今日の課題

■単元指導案

1. 単元名

2. 単元の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
-------------------	--------------------------------	------------------------------------

3. 社会と文化への気づきのポイント

4. 他教科・他科目との連携

5. パフォーマンス課題

6. 学習指導における具体的な評価基準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びあう態度	一人ひとりの生徒の 「いる」可動性・学習の達成
⇒観点別学習状況評価	⇒観点別学習状況評価	⇒個人内評価	⇒個人内評価

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価	評価方法
1			
2			
3			

・主文なし
=年間目標の部分を構成しているので
=資質能力の3つの柱を記述
=年間目標を本単元の内容に応じて
具体化する

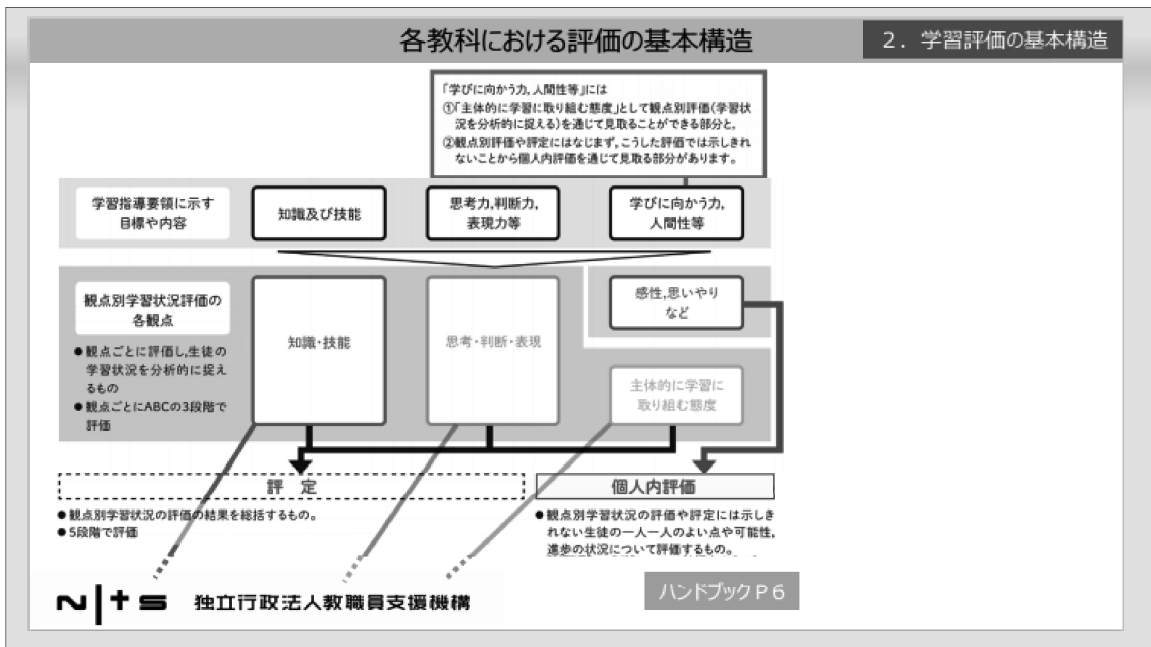
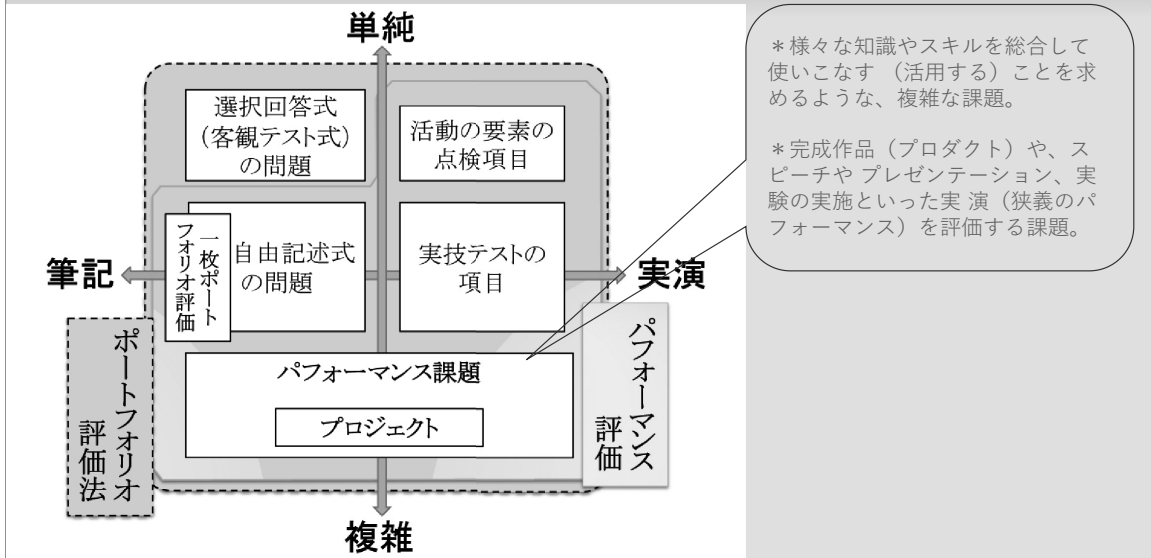
・「第2の外国語」においては、
言語自体や言語の背景・結果としての文化の学びが大事
←研究担当者の先生方の実践
=「第2の外国語」の「見方・考え方」

・カリキュラムマネジメントの視点
=学校全体で、目標達成に取り組むべき

・資質、能力の修得・育成・涵養に
最も適した評価法のひとつ

・「2. 単元の目標」の達成状況を、
“どこで”+“どうやって”「見取る」のか？
→明確化・意識化し、記述する

・「評価の評定化」の課題



第1回ワークショップ資料 (2)



本日のグループワーク

本日のグループワーク

本日、WS第1日目のグループワークでは、
「単元目標、三つの資質能力と授業内活動の連関」を
考えます。

先ほどの指導案の中から、本日は…

この部分について、深く理解するためのグループワークを行います

〇〇高等学校の〇〇科の取り組み
100年度

授業名:「〇〇」
担当: 〇〇
クラスの概要: 高校一年生〇〇名(男〇〇名・女〇〇名)既習者〇〇名、週に〇〇回、〇〇曜日に〇〇単位
生徒の学習動機: 〇〇
使用教科書:「〇〇」〇〇出版社
年間目標: 〇〇

生きて働く	高校の授業にも対応できる	学びを人生や社会に活かそうとする
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の醸成

単元指導案
1. 単元名
2. 習熟名
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く	高校の授業にも対応できる	学びを人生や社会に活かそうとする
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の醸成

4. 社会と文化への気づきのポイント
5. 他教科・他科目との連携
6. 取り上げる教材・題材や具体的なパフォーマンス課題や学習活動

8. 指導と評価の計画 (単元の指導と評価の展開) (単元案)

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	〇交流会で扱う表現を復習する。	【知識・技能】文脈に必要な新出語彙を理解している。	単答式ペーパーテスト

9. 対象となる授業の指導案

時	学習活動	指導上の留意点	学習活動
1		(評価規準)	
		【知識・技能】(等)	
		【評価方法】	

単元目標、三つの資質能力と授業内活動の連関

このプロジェクトで作成している指導案では逆向き設計の視点で授業の枠組みを考えます。

つまり年間の目標と涵養すべき三つの資質能力をあらかじめ設定して、それを達成できるように、各単元の目標となる三つの資質能力の設定をします。

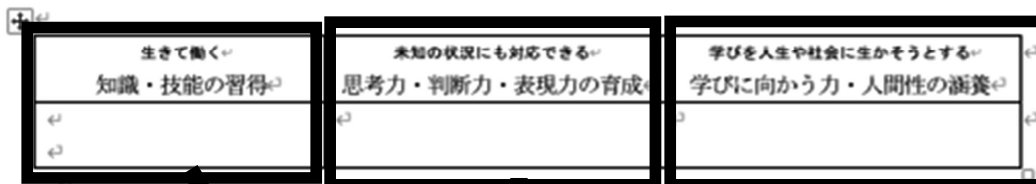
単元目標、三つの資質能力と 授業内活動の連関

この考え方で、単元内の授業内活動及びパフォーマンス課題も、単元の目標として設定した3つの資質能力のそれぞれとの連関から考えていきます。

つまり、個々授業での授業内活動とパフォーマンス課題は、単元で設定した3つの資質能力の育成にどのように関連するか、という視点から設定されます。

単元指導案

1. 単元名
2. 言語名
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)



- 4. 社会と文化への気づきのポイント
- 5. 他教科・他科目との連携
- 6. 取り上げる教材・題材や具体的なパフォーマンス課題や言語活動

パフォーマンス課題及び、そこに至るための授業活動

単元目標、三つの資質能力と 授業内活動の連関

このように、連関を考えながら授業内活動とパフォーマンス課題を設定することで、年間、そして単元、そして個々の授業活動に一貫性が生まれ、個々の授業活動に意義と必然性が与えられることとなります。

本日のグループワークでは…

あなたは実習生を迎え入れ、アドバイスしながら年間目標と単元指導案を作ってもらっています。

単元の資質能力と、授業内で達成したいことはすでに決まりましたが、実際に授業内でどのような活動を行えば、これらの資質能力を培うことができるでしょうか？

本日のグループワークでは…

単元の資質能力との連関を考えながら、実際の授業内での適切な授業内での活動を話し合ってください。それが本日のワークです。

その前に、具体的な単元の目標と授業内活動の連関の一例をお見せします

韓国語授業の一例

これからチャット欄に、ある韓国語授業の指導案の一例をお送りします。そちらを横目に見ながら、解説をお聞きください。

■クラスの概要と年間目標

○○米中学校

校名: 韓国語

指導者: ○○○○

クラスの概要: 前2,3年生(計2名)脱習者なし、週に1回、火曜日に2単位

生徒の学習動機: K-POPやドラマ、化粧品や食・服飾のモデルチャームに関心を持つ生徒が多い。

使用教科書: ○

年間目標および3つの資質・能力

年間目標とそれをプレイバックした3つの資質・能力が次のように設定した。

■単元指導案

1. 単元名 「自分の高校を紹介しよう」

2. 授業回数 11月~1月の間、12時間

3. 単元の目標

生きて働く	未知の状況にも対応できる	学びを人生や社会に生かそうとする
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現(発信)することができる。	自分の学校を相手に紹介したり、クラス全体でやりとりをすることができる。	韓国や韓国語に関心を持ち、日本語との違いや共通点を見つけることができる。
見る人、聞く人(対象者)が何を知らたいのか(ニーズ)、あるいは適切な場面、状況を想定した上で、適切な表現を選び、文を作成することができる。	自分の身の回りのことを韓国語で理解し、説明したり紹介したりすることができるようになる中で、似ているが違う点を認知する。	自分の通っている学校についてあらかじめ考える機会とし、自分の周辺の魅力を再発見する。また、言葉の背景にある韓国文化や社会への理解を深める。

パフォーマンス課題と授業活動

「自分の高校を紹介しよう」

協定校の生徒との交流を想定し、動画(オンデマンド)で自分が通っている学校を、グループで5分以内で韓国語で紹介してみよう。

授業中の活動

時	学習活動
00分	① 相手の発言を理解し、発言内容に対する感想・質問を考える 活動: 動画「青柳総合高校を紹介しよう」を2回見て、感想をワークシートに記入する(個人作業)
00分	② 脱習事項を使った文章を作成し、記述する 活動: 教員作成のメモを参考にしながら他グループの発表への質問を考え、代表が板書する(グループ作業)
00分	③ 授けられた質問を理解し、適切な回答を記述する 活動: 自分のグループに出された質問の回答をメモを参考にしながら考え、代表が板

本日、ワークを行うのはこちらの部分です。

3. 単元の目標

生きて働く	未知の状況にも対応できる	学びを人生や社会に生かそうとする
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現(発信)することができる。	自分の学校を相手に紹介したり、クラス全体でやりとりをすることができる。	韓国や韓国語に関心を持ち、日本語との違いや共通点を見つけることができる。
見る人、聞く人(対象者)が何を知らたいのか(ニーズ)、あるいは適切な場面、状況を想定した上で、適切な表現を選び、文を作成することができる。	自分の身の回りのことを韓国語で理解し、説明したり紹介したりすることができるようになる中で、似ているが違う点を認知する。	自分の通っている学校についてあらかじめ考える機会とし、自分の周辺の魅力を再発見する。また、言葉の背景にある韓国文化や社会への理解を深める。

「自分の高校を紹介しよう」

協定校の生徒との交流を想定し、動画(オンデマンド)で自分が通っている学校を、グループで5分以内で韓国語で紹介してみよう。

授業中の活動

時	学習活動
00分	① 相手の発言を理解し、発言内容に対する感想・質問を考える 活動: 動画「青柳総合高校を紹介しよう」を2回見て、感想をワークシートに記入する(個人作業)
00分	② 脱習事項を使った文章を作成し、記述する 活動: 教員作成のメモを参考にしながら他グループの発表への質問を考え、代表が板書する(グループ作業)
00分	③ 授けられた質問を理解し、適切な回答を記述する 活動: 自分のグループに出された質問の回答をメモを参考にしながら考え、代表が板

単元の目標となる
3つの資質能力

⇕

連関を持たせる

パフォーマンス課題を含めた実際の授業内活動

授業中の活動	
時	学習活動
〇〇分	① 相手の発言を理解し、発言内容に対する感想・質問を考える 活動：動画「青柳総合高校を紹介しよう」を2回見て、感想をワークシートに記入する（個人作業）
〇〇分	② 既習事項を使った文章を作成し、記述する 活動：教員作成のメモを参考にしながら他グループの発表を聞き、質問を考える（グループ作業）
〇〇分	③ 投げかけられた質問を理解し、適切な回答を記述する 活動：自分のグループに出された質問の回答をメモに記述する（グループ作業）
〇〇分	④ 作成した文章を正確に発話し、日本語との違いについて考える 活動：グループ代表が板書の質問、回答を読み上げて共有する。その際、教員が日本語と韓国語の相違点など補足説明する

授業内の活動の目的

目的を達成するために実際に授業内で行う活動

韓国語授業の一例

単元目標

知識・技能の習得：「学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現（発信）することができる。」

授業内活動

目的

既習事項を使った質問文を作成する

活動

教員作成の既習事項リストを参考にしながら他グループの発表への質問を考える

4 活動と単元目標の連携

生きて働く ⁴¹	未知の状況にも対応できる ⁴²	学びを人生や社会に活かそうとする ⁴³
知識・技能の習得 ⁴⁴ 学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現(例)「何」することができます。 ⁴⁵	思考力・判断力・表現力の育成 ⁴⁶ 自分の学校を相手に紹介したり、クラス全体でやりとりをすることができます。 ⁴⁷	学びに向かう力・人間性の涵養 ⁴⁸ 韓国や韓国語に関心を持ち、日本語との違いや共通点を見つけることができます。 ⁴⁹
見る人、聞く人(対象者)が何を知りたいのか ⁵⁰ (ニーズ)、あるいは適切な場面、状況を想定した上で、適切な表現を選び、文を作成することができる。 ⁵¹	自分の身の回りのことを韓国語で理解し、説明したり紹介したりすることができるようになる中で、似ている点や異なる点を知ることができる。 ⁵²	自分の通っている学校についてあらためて考える機会とし、自分の高校の魅力を再発見する。 ⁵³ また、言葉の背景にある韓国文化や社会への理解を深める。 ⁵⁴

配布した授業案の3枚目
3つの資質能力と授業内活動に連関がつけられています。

授業活動 ⁵⁵
① 相手の発言を理解し、発言内容に対する感想・質問を考える ⁵⁶ 動画「自分の高校を紹介しよう」を2回見て、感想をワークシートに記入する(個人作業) ⁵⁷
② 既習事項を使った文章を作成し、記述する ⁵⁸ 教員作成の既習事項リストを参考にしながら他グループの発表への質問を考え、代表が板書する(グループ作業) ⁵⁹
③ 扱わずにかけられた質問を理解し、適切な回答を記述する ⁶⁰ 自分のグループに出された質問の回答をメモを参考にしながら考え、代表が板書する(グループ作業) ⁶¹
④ 作成した文章を正確に発語し、日本語との違いについて考える ⁶² グループ代表が板書の質問、回答を読み上げて共有する。その際、教員が日本語と韓国語の相違点などを取り上げ、生徒とディスカッションを行う ⁶³

本日のグループワークでは…

4 活動と単元目標の連携

生きて働く ⁴¹	未知の状況にも対応できる ⁴²	学びを人生や社会に活かそうとする ⁴³
知識・技能の習得 ⁴⁴ ・数字の表し方 ⁶⁴ ・時間や曜日の言い方(〜時/〜曜日/〜をする) ・一日の流れについての言い方 ⁶⁵	思考力・判断力・表現力の育成 ⁴⁶ ・自分と同年同月、様々な国の生徒たちの学校生活について想像する力。 ⁶⁶ ・目的に応じて必要な情報を収集し、表発する内容を判断する能力。 ⁶⁷ ・既習事項やビジュアルアイドを活用しながら、伝えたい情報を工夫して構成・表発する能力。 ⁶⁸	学びに向かう力・人間性の涵養 ⁴⁸ ・自律的・主体的に外国語を用いて、相手に伝えようとする態度。 ⁶⁹ ・ドイツ語圏や、他の文化圏の学校生活について理解し、相手の文化背景を考慮しながら、情報や考えを伝えようとする態度。 ⁷⁰ ・目標言語の学習を通じて、積極的に周囲の人を尊重しながら関わり、相互理解を深めようとする態度。 ⁷¹

単元目標との連関を持たせながら

どのような実際の授業活動が考えられるでしょうか？

本日のグループワークでは…

グループワークの成果として、個々の授業内活動の内容及び、単元の3つ資質目標との連関をつけたもののグループごとの発表をお願いします。

3つの資質能力と授業内の具体的な活動の連関については、本プロジェクトでも進行中の課題ですので、皆様からのアイデアとご意見を賜れば幸いです。

第1回ワークショップ資料(3)

年間目標と単元指導案(ケース1)

■クラスの概要と年間目標

〇〇高等学校

授業名：ドイツ語

担当者：〇〇〇〇

クラスの概要：2単位、受講生8名(2年生6名、3年生2名、女子7名、男子1名)

生徒の学習動機：多言語学習がしたい、世界史や心理学が好き、国際交流がしたい、等

使用教科書：〇〇〇〇

年間目標

ドイツ語圏の同世代の生徒や、身近にいる同世代の生徒と交流することを想定し、ドイツ語やドイツ語圏の文化に関心を深め、相手の文化と自分の文化をお互いに紹介するような活動を通じ、自己紹介・趣味・自分の一日について話題にし、自ら発信することができる。

資質能力別の目標

知識・技能	思考力・表現力・判断力	学びに向かう力・人間性
・ドイツ語の音声、語彙、文法、言語の働き等を母語や既習言語の知識を援用しながら理解する。	・相手と自分の関係や、相手の文化的な背景に配慮しつつ、コミュニケーションを円滑に進めるために、4技能のスキルを場面に応じて適切に運用することができる。 ・相手の考えを理解し、自分の考えを様々な手段(文字テキスト、ジェスチャー、写真、動画等)を使いながら伝えることができる。	・相手と積極的に関係を構築するために、自ら発信し、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。 ・ドイツ語圏の文化を、他文化や自文化と比較しながら理解を深めることと同時に、自文化や固定観念についても内省することができる。

■単元指導案

1. 単元名 自己の一日
2. 授業回数 10月～11月の間、10時間(2コマ続き、5回)

3. 単元の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・数字の表し方 ・時間や曜日の言い方（～時に/～曜日に～をする） ・一日の流れについての言い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と同年代の、様々な国の生徒たちの学校生活について想像する力。 ・目的に応じて必要な情報を収集し、表現する内容を判断する能力。 ・既習事項やビジュアルエイドを活用しながら、伝えたい事柄を工夫して構成・表現する能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的・主体的に外国語を用いて、相手に伝えようとする態度。 ・ドイツ語圏や、他の文化圏の学校生活について理解し、相手の文化背景を考慮しながら、情報や考えを伝えようとする態度。 ・目標言語の学習を通じて、積極的に周囲の人を尊重しながら関わり、相互理解を深めようとする態度

4. パフォーマンス課題

- ・ドイツ語圏の同世代の生徒や同世代の身近な生徒と交流することを想定し、自分たちの一日や一週間について話し、日本・ドイツ以外の同年代の生徒（フランスと中国を想定）の学校生活を語ろう！
- ・中国やフランスでの学校生活について、中国語学習者やフランス語学習者から情報を得て、ドイツ語で報告してみよう！

5. 授業活動

次	学習活動
1・2 (10/21)	① 時間の言い方と曜日の言い方を学ぶ
3・4 (11/4)	② 一日の生活についてテキストを読む
5・6 (11/11)	③ ドイツ語圏の高校の時間割を見て、日本の時間割と比べる
7・8 (11/18)	④ 一日や一週間の生活についてお互いに尋ね合う
9・10 (11/25)	⑤ 自分の一日や一週間について表現できる

③ ドイツ語圏の高校の時間割を見て、日本の時間割と比べる

④ 一日や一週間の生活についてお互いに尋ね合う

⑤ 自分の一日や一週間について表現できる

年間目標と単元指導案(ケース2)

■クラスの概要と年間目標

〇〇高等学校

授業名：中国語

担当者：〇〇〇〇

クラスの概要：25人。2、3年生共修。全員が履修2年目(2単位履修済み)

生徒の学習動機：中国語に興味があるため。単位取得のため

使用教科書：〇〇〇〇

年間目標：

中国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図り、中国語及びその背景にある文化や社会、中国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、自他の文化や社会を理解する。

資質能力別の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	中国語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、中国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

■単元指導案

1. 単元名 ビデオレターで文通しよう
2. 授業回数 90分

3. 単元の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・移動に関することや、目的地の地理を紹介することについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取った友人の話を踏まえ、移動の方法を提案したり、自分の考え表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとする。

4. パフォーマンス課題

来日する中国の大学生から送られて来たビデオレターの内容に基づき、東京・上野への行き方、所要時間、金額、一緒に食べたいもの、日本の美術品とその魅力について相手に伝える内容のビデオレターを撮影する。

5. 授業活動

次	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ① 本単元の目標を理解する。 ② 教科書の例文等を参考に、移動に関わる語彙や表現を理解する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ③ 移動に関する語彙や表現を使い、ペアやグループで会話する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ④ 友人からのビデオレター見て、内容を理解する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 返答のために、必要なことを調べる。 ⑥ 友人からの返答のために、必要なことを調べる。ビデオレターに基づき、返答をまとめる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 友人へのビデオレターを撮影する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 学びの内容を点検するため、ビデオレターを相互に評価したり、振り返りを通して自分の考えを見直したりする。 <p>(この他に、1次・3次のペーパーテストを実施)</p>

今日のグループ活動のお題：活動と単元目標の連関

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・移動に関することや、目的地的地の地理を紹介することについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取った友人の話を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとする。

授業活動
<p>① 本単元の目標を理解する。</p> <p>② 教科書の例文等を参考に、移動に関わる語彙や表現を理解する。</p> <p>③ 移動に関する語彙や表現を使い、ペアやグループで会話する。</p> <p>④ 友人からのビデオレター見て、内容を理解する。</p>

⑤ 返答のために、必要なことを調べる。

⑥ 友人からの返答のために、必要なことを調べる。ビデオレターに基づき、返答をまとめる。

⑦ 友人へのビデオレターを撮影する。

⑧ 学びの内容を点検するため、ビデオレターを相互に評価したり、振り返りを通して自分の考えを見直したりする。

1 第2回ワークショップ資料（1）

慶應義塾大学外国語教育研究センター主催
「多様な外国教育に取り組む教師向けワークショップ
—来年度の授業計画を立ててみる—」 第二回目
2022.2.27

グローバル化に対応した外国語教育推進事業と
指導案様式の運用

指導案様式 <その1>

2

■授業の概要

1. 学校名：
2. 科目名：
3. 単位数：
4. 担当者：
5. クラスの構成：高校n年生 m名(男r名・女o名)
6. 生徒の概況：
7. 使用教科書：

指導案様式 <その2>

■年間指導案

3

1. 年間目標 :

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養

2. 単元構成 :

月	単元名	備考

指導案様式 <その3>

■単元指導案

4

1. 単元名

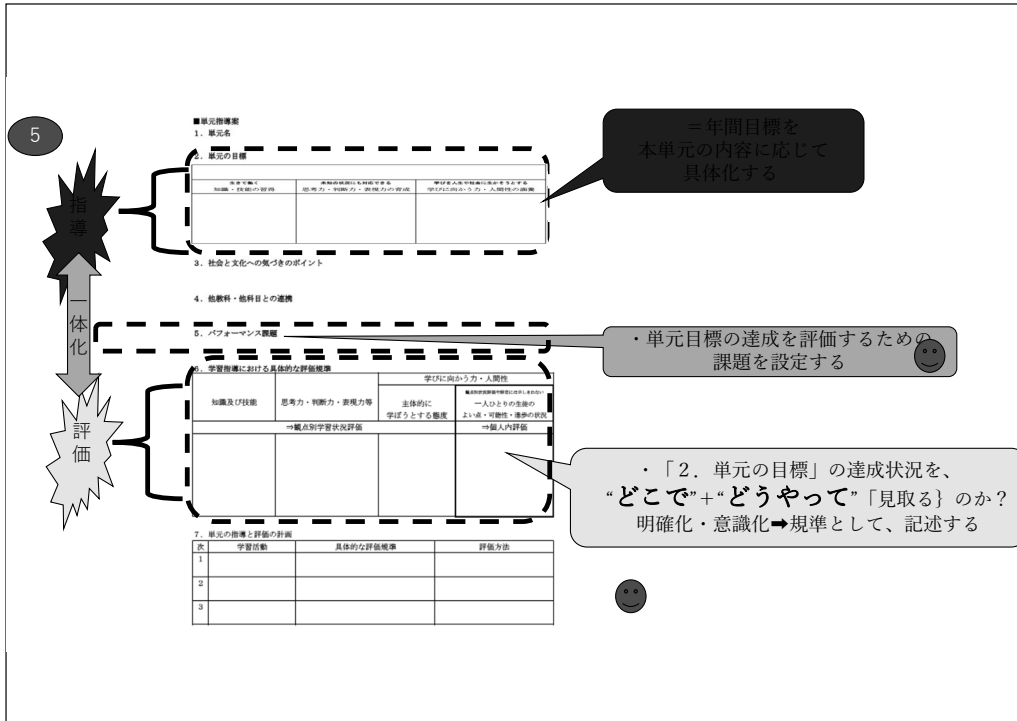
2. 単元の目標

『主文』欄の追加		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養

3. 社会と文化への気づきのポイント

4. 他教科・他科目との連携

5. パフォーマンス課題



2022春
『観点別』
ショック！

評価、評価と
夜も眠れず・・・

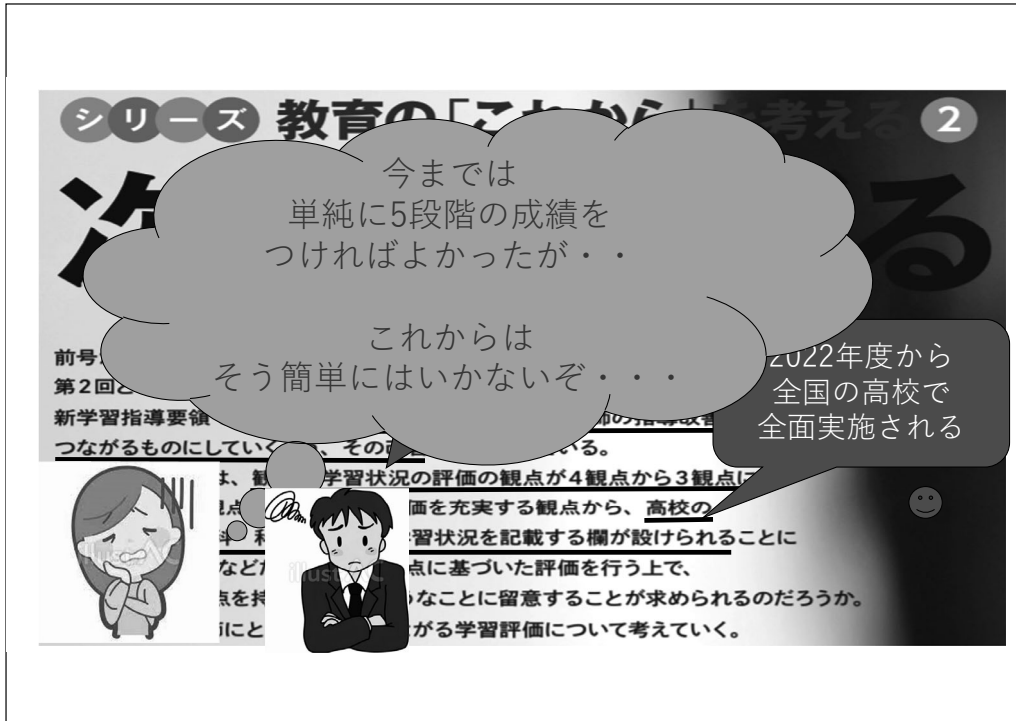
先生方とともに
高校生の学びを深めよう

12. VIEW21
(12-21)
高校教育
2020
Vol. 5

ベネッセ教育総合研究所

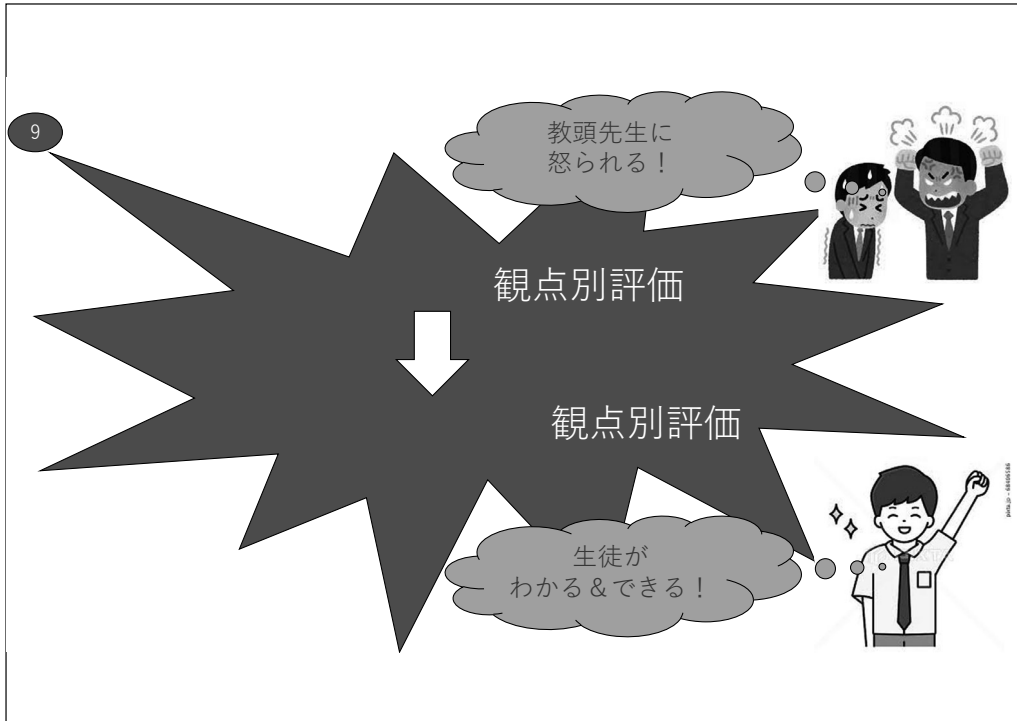
特集
シリーズ 教育のこれからを考える②
次につながる
学習評価

北海道 札幌南中学校
東京都 文京区立東中高等学校
千葉県 市川市立市川南中学校
兵庫県 神戸市立中央高等学校
福岡県 福岡市立中央高等学校
鹿児島県 鹿児島市立中央高等学校



13 『指導と評価の一体化』 というと面倒くさそうだが・・・

- 「目標」にもとづいて指導したら
 - 「目標」が達成されたか評価する
- ↓
- 「目標」を資質能力別に設定したのだから
 - 評価を資質能力（≒観点）別に行うのも、**むべなるかな**(^_-)-☆
- ↓
- 「観点別学習状況の評価」を転じて、われわれの**好機**となす!?



学習評価

教師が考える「理想の評価」

- 評価の負担が大きくなり、生徒のよさを評価する機会が多く持てる、そのような評価。(東京都/私立)
- 生徒の努力が数値として明確な形で表れる評価。(千葉県/私立)
- 授業の目的、評価の基準が明確で、生徒の多面的な活動が反映できる評価。(東京都/公立)
- 生徒が、前向きになり、よりよい学びをつくっていかうという意識を持つきっかけとなる評価。(東京都/公立)
- 生徒と教師双方の学びに向けての方向性が一致するような評価。(長野県/公立)

出典/『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果
(アンケートは、2020年10月にウェブとファクスで実施)

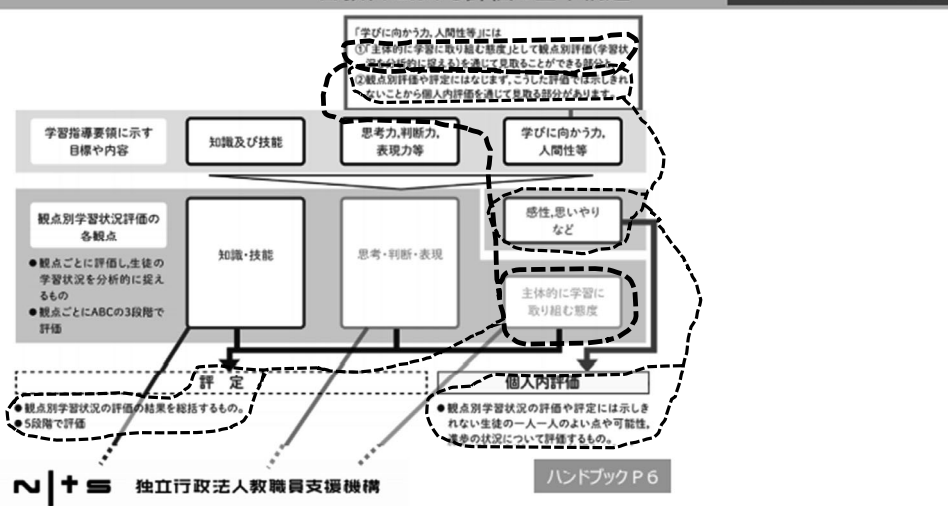
6. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぶ姿勢	観点別学習状況や評定には示さない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
→観点別学習状況評価		→個人内評価	

要注意！

7. 単元の指導と評価の計画

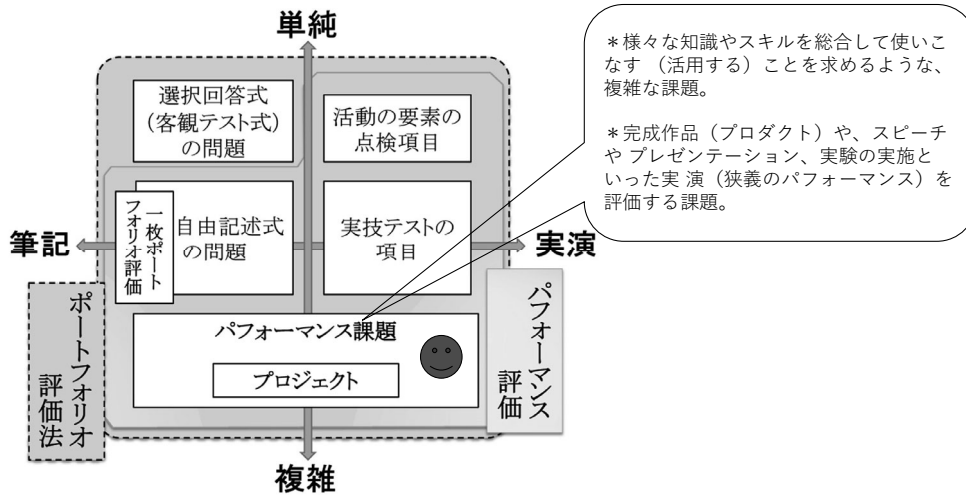
次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1			
2			
3			



6. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	一人ひとりの生徒の 思い・可能性・進歩の状況
→観点別学習状況評価		→個人内評価	
← どう区分する ??? →			
7. 単元 次		評価方法	
2			
3			

<https://www.kyobun.co.jp/education-practice/p20190326/>



高等学校における観点別学習状況の評価の充実



高等学校における各教科・科目の評価についても、観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施する。

高等学校における観点別学習状況の評価の更なる充実とその質を高める必要がある。



指導要録の参考様式にも各教科・科目の観点別学習状況を記載する欄を設置。

第1学年		
学習状況	評定	修得単位数
AAA	5	2

従来の評定、修得単位数に加えて、「観点別学習状況」欄を新設

https://www.mext.go.jp/content/20202012-mxt_kyoiku01-100002605_1.pdf

『新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について』文部科学省初等中等教育局教育課程課 令和元年度地方協議会等説明資料

図3 高校の指導要録(参考様式)の変更点

14

AAAを数値化⇒合算
⇒5段階評定

「評定」「修得単位数」に加え、「観点別学習状況」の欄を新設

「十分満足できる」状況と判断されるものは「A」、「おおむね満足できる」状況は「B」、「努力を要する」状況は「C」のように区分して評価を記入する。

「知識・技能」の評価の捉え方
現行の「理解」の観点も含まれる。例えば、ペーパーテストで、事実に基づく知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスへの配慮、記述式問題や式・グラフで表現する問題の出題など、多様な方法を適切に取り入れる工夫が必要。

「思考・判断・表現」の評価の捉え方
3つの要素それぞれを、別々ではなくセットで評価する。ペーパーテスト以外にも、論述やレポートの作成、発表、話し合い、作品制作などの多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりして評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の捉え方
ノートやレポートなどの記述、授業中の発言、行動観察、自己評価や相互評価などが材料となる。各教科等の特質に応じて、生徒の発達段階や個性を十分に配慮し、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価する必要がある。

*文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」を基に編集部で作成。

VIEW21_kou_2020_12_tokusyuu_01観点別.pdf

https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/VIEW21_kou_2020_12_tokusyuu_01.pdf



前回の 振り返り

第2回ワーク
ショップ資料
(2)

第一回めのハンズオンの振り返り

前回のWS第1日目のグループワークでは、
「単元目標、三つの資質・能力と授業内活動の連関」
を考えました。

The image displays a lesson plan document for a high school course. On the left, the document includes the course title, school name, and various educational goals. A red box highlights a section titled '資質・能力の目標' (Goals for Qualities and Abilities), which lists three specific goals: 1. 基礎力 (Basic Skills), 2. 専門性 (Specialty), and 3. 最先端の目標 (Cutting-edge Goals). A speech bubble points to this section with the text: 'この部分について、深く理解するためのグループワークを行いました' (We conducted group work to deeply understand this part).

On the right, there is a table titled '7. 学習指導における具体的な評価規準' (7. Specific Evaluation Standards in Learning Guidance). The table has columns for '学習活動' (Learning Activities), '評価規準' (Evaluation Standards), and '学習活動' (Learning Activities). It details evaluation criteria for knowledge and skills, and for the three qualities and abilities mentioned in the lesson plan.

単元目標、三つの資質・能力と 授業内活動の連関

このプロジェクトで作成している指導案では逆向き設計の視点で授業の枠組みを考えます。

つまり年間の目標と涵養すべき三つの資質・能力をあらかじめ設定して、それを達成できるように、各単元の目標となる三つの資質・能力の設定をします。

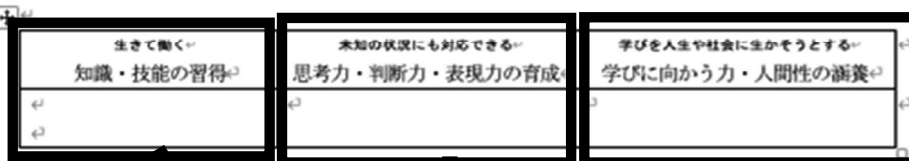
単元目標、三つの資質能力と 授業内活動の連関

この考え方で、単元内の授業内活動及びパフォーマンス課題も、単元の目標として設定した3つの資質・能力のそれぞれとの連関から考えていきます。

つまり、個々授業での授業内活動とパフォーマンス課題は、単元で設定した3つの資質・能力の育成にどのように関連するか、という視点から設定されます。

単元指導案

1. 単元名
2. 言語名
3. 単元の目標 (資質・能力の3つの柱)



- 4. 社会と文化への気づきのポイント
- 5. 他教科・他科目との連携
- 6. 取り上げる教材・題材や具体的なパフォーマンス課題や言語活動

パフォーマンス課題及び、そこに至るための授業活動

単元目標、三つの資質・能力と 授業内活動の連関

このように、連関を考えながら授業内活動とパフォーマンス課題を設定することで、年間、そして単元、そして個々の授業活動に一貫性が生まれ、個々の授業活動に意義と必然性が与えられることとなります。

前回のグループワークでは…

あなたは実習生を迎え入れ、アドバイスしながら年間目標と単元指導案を作ってもらっています。

単元の資質能力と、授業内で達成したいことはすでに決まりましたが、実際に授業内でどのような活動を行えば、これらの資質能力を培うことができるでしょうか？

前回のグループワークでは・・・

グループごとに、このような問題設定に関して、中国語の授業例のワークシート、ドイツ語の授業例のワークシートにそれぞれ取り組んでいただきました。

中国語：「ビデオレターで文通しよう」

学習目標	知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に活かす力
・移動に関することや、目的地に関する表現を習得することや、目的地に関する表現を習得することによって、移動の方法や手段などについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。	・移動に関する表現を習得することや、目的地に関する表現を習得することによって、移動の方法や手段などについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。	・東洋・上野に行きたいと思う理由を述べ、理由の正当性を主張したり、力を説き及ぼし、相手に伝えるために、自分の考えを語り聞く学習で表現しようとする。	・東洋・上野に行きたいと思う理由を述べ、理由の正当性を主張したり、力を説き及ぼし、相手に伝えるために、自分の考えを語り聞く学習で表現しようとする。

学習活動

- ① 本単元の目標を理解する。
- ② 教科書の例文等を参考に、移動に関する語彙や表現を理解する。
- ③ 移動に関する語彙や表現を使い、ペアグループで会話する。
- ④ 友人からのビデオレターを見て、内容を理解する。

ドイツ語：「自分の1日」

学習目標	知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に活かす力
・移動に関する表現を習得することや、目的地に関する表現を習得することによって、移動の方法や手段などについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。	・移動に関する表現を習得することや、目的地に関する表現を習得することによって、移動の方法や手段などについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。	・東洋・上野に行きたいと思う理由を述べ、理由の正当性を主張したり、力を説き及ぼし、相手に伝えるために、自分の考えを語り聞く学習で表現しようとする。	・東洋・上野に行きたいと思う理由を述べ、理由の正当性を主張したり、力を説き及ぼし、相手に伝えるために、自分の考えを語り聞く学習で表現しようとする。

3. 視覚的目標

学習目標	知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に活かす力
・移動に関する表現を習得することや、目的地に関する表現を習得することによって、移動の方法や手段などについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。	・移動に関する表現を習得することや、目的地に関する表現を習得することによって、移動の方法や手段などについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。	・東洋・上野に行きたいと思う理由を述べ、理由の正当性を主張したり、力を説き及ぼし、相手に伝えるために、自分の考えを語り聞く学習で表現しようとする。	・東洋・上野に行きたいと思う理由を述べ、理由の正当性を主張したり、力を説き及ぼし、相手に伝えるために、自分の考えを語り聞く学習で表現しようとする。

4. パワーポイント目標

ドイツ語圏の生活や文化に関する知識を習得し、自分の一日や一週間の生活について話し、日本・ドイツの両国の生活（フランスや中国も含む）の学校生活をめぐる1日・1週間やフランスでの学校生活について、中国語やフランス語を習得する機会を得て、ドイツ語で話し合おう！

5. 授業計画

回	学習活動
1・2 (10/21)	① 移動に関する単語の読み方を覚える
3・4 (11/4)	② 一日の生活についてテキストを読む
5・6 (11/11)	③ ドイツ語圏の高校の時刻表を見て、日本の時刻表と比べる
7・8 (11/18)	④ 一日や一週間の生活について話し合いを始める
9・10 (11/25)	⑤ 自分の一日や一週間について表現できる

第2回ワークショップ資料(3)

2022年2月27日

神奈川県立藤沢総合高等学校の中国語の取り組み

神奈川県立藤沢総合高等学校

中国語担当：潮田 央

藤沢総合高校は、神奈川県立の高校で単位制総合学科である。100を超える選択講座があるほか、 Semester制である。生徒は大学(短期大学)、専門学校、就職等、多様な進路希望を持って入学する。また、英語以外の外国語科目が設置されており、「中国語」(中国語入門、中国語発展)、「スペイン語」(スペイン語入門、スペイン語発展)、「韓国語」(ハングル語入門、ハングル語発展)が履修できる(韓国語については2023年度より)。さらに、来年度からは在県外国人特別募集の対象校ともなる。総合学科らしく多様性のある学校である。

今回の対象授業は「中国語発展」である。半期科目であり、週当たり55分×4回(2単位相当)である。ただし、今年度はコロナ禍の影響があり50分または40分であった。「中国語発展」は「中国語入門」を履修した生徒のみ履修可能であり、1年間のうちに「中国語入門」「中国語発展」の両方を履修することを勧めている。その場合は、生徒は4単位履修できることとなる。ただし、生徒の履修理由はさまざま、必ずしも「前向き」な理由で理由しているわけではない。なお、使用教科書『標準高校中国語』[第3版](白帝社)である。

ここでは、まず当該授業である「中国語発展」における、年間目標と各観点の目標を見たい。

年間目標

中国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図り、中国語及びその背景にある文化や社会、中国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、自他の文化や社会を理解する。

知識・技能

中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力

中国語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、中国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力・人間性

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

以上のように設定した。

続いて、年間指導計画は次の表の通りである。ただし、ここでは1年間の指導計画として書いているが、実際は Semester 制であるので前期の4月～9月は「中国語入門」であり、10月以降が「中国語発展」の授業である。

時期	単元名	パフォーマンス課題	備考
4月・5月	中国語で挨拶して名刺交換しよう	挨拶して名前や国籍を言う(会話)	ピンインの読み方、発音
6月	買い物してみよう	買い物のロールプレイ(会話)	数字について
7月	一日のことをまとめてみよう	自分の一日のことを用紙にまとめる	時間の表現
8月～9月	自分のことを説明しよう	自分の名前、年齢、(家族構成)、住んでいる場所、趣味等を紹介する。(発表)	前期のまとめ
10月	有名人を紹介しよう	自分の好きな有名人のことを紹介する	ビデオ撮影
11月	ビデオレターで文通しよう		ビデオ撮影

続いて、研究授業の単元の概要である。「単元名」は「ビデオレターで文通しよう」であり、実施時期は「11月」である。「時間数」は6次であったが、この期間には40分授業の期間があった。また、教科書の内容では2～3課を使用している。

指導案の単元の目標は次の通りである。

単元の目標 (資質・能力の3つの柱)

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・移動に関することや、目的地の地理を紹介することについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取った友人の話を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとする。

この単元で実施している「ビデオレター」とは次のようなものである。

SNSを通じてできた中国人の友人が東京に遊びに来ることになる。その友人は、

- ・12月5日に成田空港に来る。
- ・成田から東京に行きたい。
- ・日本の美術品を博物館で見たい。
- ・成田空港からその場所までの行き方、乗り物、その金額、所要時間を知りたい。
- ・おすそめを教えてもらいたい。

・お昼を一緒に食べたい。

これに対応した答えを考え、ビデオレターを作成する。

以上はあくまで架空の内容であるが、実際に中国人の大学生に動画を作成してもらった。

次に、「研究授業の内容・パフォーマンス課題」を見たい。

授業の内容を簡単に言えば、ビデオレターを使った文通のような活動をする単元である。中国人大学生の動画は、Google ドライブで共有し、生徒がいつでも何度でも見られるようにした。授業で動画を見る時はグループ活動によって、適宜単語を確認しながら、ディクトグロスのようにした。何もない状態から原稿を作成することは難しいので、生徒が自分で調べたり、考えたりできる要素を残しながらワークシートで大体の内容を書けるようにした。原稿作成後、提出のビデオレターは生徒の持つスマートフォンでそれぞれ撮影した。時間は1分30秒程度である。撮影したビデオレターはGoogleのClassroomで提出させた。なお、提出後、お互いに動画を見合う時間を設定したが、相互評価等をする際もClassroomで配信したものを見せた。なお、研究授業の時間は原稿作成の時であった。

次に、具体的な単元案である、「指導と評価の計画」（単元の指導と評価の展開）を見る。

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	・本単元の目標を理解する。 ・教科書の例文等を参考に、移動に関わる語彙や表現を理解する。	【知識・技能】 移動に関する語彙や表現（交通機関、金額、時間の伝え方）を理解している。	ペーパーテスト（6次）
2	・移動に関する語彙や表現を使い、ペアやグループで会話する。	【知識・技能】 移動に関して相手の話したことを聞き取ったり、自分のことを話したりする技能を身に付けている。	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する）
3	・友人からのビデオレター一見して、内容を理解する。	【思考力・判断力・表現力等】 相手の質問を聞き取り、その意図をくみ取っている。	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する）
4	・返答のために、必要なことを調べる。 ・友人からの返答のために、必要なことを調べる。ビデオレターに基づき、返答をまとめる。	【思考力・判断力・表現力等】 ビデオレターを返信するために、移動の方法を提案したり、自分の考え的確に表現したりしている。	原稿の分析。
5	・友人へのビデオレターを撮影する。	【思考力・判断力・表現力等】 聞き取った友人の意見を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現し	パフォーマンス評価（ルーブリック）。

		たりしてビデオレターを撮影している。	
6	<p>・学びの内容を点検するため、ビデオレターを相互に評価したり、振り返りを通して自分の考えを見直したりする。</p> <p>(この他に、1次・3次のペーパーテストを実施)</p>	<p>【主体的に学ぼうとする態度】</p> <p>・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとしている。</p>	振り返りシートの分析。

ここで言う「次」とは必ずしも授業の時間数と一致しない。単元内でのまとまりを意味する。大きく6次に分かれおり、1次・2次は該当の内容を教科書を使って学習している。教科書の内容を2～3課ほどまとめた内容に即した言語活動として、ビデオレター作成を置いている。3次で相手からのビデオレターを見た後に調べ学習や原稿作成、練習、発表が続く。ここは生徒の実際の進捗によって時間数が変わるところである。この後の単元でもビデオレター作りを何度か試みたが、後の単元になるにしたがって、このサイクルに必要な時間は少なくなった。また、最後の次にはペーパーテストを入れているが、実際にはこれは次の単元のものと一緒に評価した。

最後に、生徒が書いた「振り返り」から印象的なものを載せる。

「ビデオレターは自分で見返すことができ、作り直せる」

「聞き取りづらいところは、自分で何度も見直せる」

「授業で勉強したことも使ったが、単語を調べて使った」

「自動翻訳機で翻訳した言葉が正しくないことがあることがわかった」

「中国の人は温かいものが好きだということを知った」

以上で、藤沢総合高等学校における、今年度の中国語の研究授業内容の報告を終える。

2022年2月27日

「中国語研究授業『ビデオレターで文通しよう』の評価について」

神奈川県立藤沢総合高等学校

教諭 潮田 央

「はじめに」

新指導要領改訂以前は、高等学校の多くの中国語の授業では、成績処理をする前に、とにかく「試験」を実施し、その点数をもとに「1」～「5」の「評定」を決めることが多かった。だが、近年、「指導と評価の一体化」が言われ、年間目標及びそれに基づいた観点を、年間指導計画策定時に考え、それをもとに授業と成績処理を行うことになった。研究授業についての発表では、どのような授業の内容についての解説であり、具体的な指導時間数、教科書、言語活動の内容について説明した。ここでは、評価のみに照準を合わせ、今回の研究授業に示されている、目標や観点、評価規準によって、実際にはどのように評価を実施しているのか説明する。

1 「年間目標」

最初に年間目標とは何かということ述べる。

授業者として目標を設定し、一年間生徒がその授業を学んでできるようになってもらいたい水準を言う。これについて、石井英真(いしいてるまさ)氏は、達成できる能力的なものを「ねらい」と言い、各学校で決まっている「校訓」のようなもので、年間目標を超えるような存在は、「目標」ではなく「ねがい」ともいうべきものとしているⁱ。以上の「ねらい」については、他教科・他科目、例えば国語や英語等では科目ごとに指導要領で年間目標が定まっている。しかし、英語以外の外国語では、それが定まっていないために、教えている生徒の実態に合わせて定めておく必要がある。

本校の「中国語発展」では、

中国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図り、中国語及びその背景にある文化や社会、中国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、自他の文化や社会を理解する。ⁱⁱ

ということを目標にしている。

それをさらに観点へ振り分ける。本校では、

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
中国語の音声や語彙、表現、	中国語でコミュニケーションを	外国語の背景にある文化に対する

<p>文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、中国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
--	---	---

とした。音声や語彙、表現、文法、言語の働きのように、従来は試験で計測しやすいものがある。いっぽうで、思考力・判断力・表現力は試験でも測れるものであるが、パフォーマンス試験等でないと見取りづらいものでもある。これについては、後に詳しい。

2 「単元とは」

以上のような目標を生徒に身に付けさせることは、1週間や1か月のような短い期間では達成できない。見通しをもって1年間かけて行っていく必要がある。目標はブレイクダウンして、スモールステップで達成を目指す。このように、ある目標をブレイクダウンしてテーマごとに教材や活動に関連を持たせたものを「単元」と言う。文部科学省では、次のように定義している。

単元とは、児童の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」という意味である。単元計画の作成とは、教師が意図やねらいをもって、このまとまりを適切に生み出そうとする作業に他ならない。単元づくりは、教師の自律的で創造的な営みである。学校としてすでに十分な実践経験が蓄積され、毎年実施する価値のある単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の児童の実態に即して、単元づくりを行う必要がある。ⁱⁱⁱ

この「中国語入門」「中国語発展」の授業でも、ある単元では、買い物に関するやり取り（ロールプレイ）を通して、話したり聞いたりする（会話）の能力を伸ばす。また、ある単元では短いエッセイの内容を読み取って、それを的確に表現することで、読む能力を伸ばす。

今回の単元は、相手から送られて来たビデオレターを見て内容を聞き取り、内容に基づいた返信の内容を考え、発表する。聞く能力や話す能力の伸長が見込め、会話というよりはスピーチに近い活動である。

このような目標に即した様々な教育活動を、一年間かけて実施し年間目標達成を目指す。もちろん、教科書は用いる。ただ、教科書の内容を終えれば良いというのではなく、その教科書によってどのような力を、どのように付けるのかということを、授業者が設定することが求められる。

3 「単元のパフォーマンス課題の概要」

今回のパフォーマンス課題を見たい。指導案に書いた内容は次の通りである。

来日する中国の大学生から送られて来たビデオレターの内容に基づき、東京・上野への行き方、所要時間、金額、一緒に食べたいもの、日本の美術品とその魅力について相手に伝える内容のビデオレターを撮影する。

この活動によって、身に付けるべき目標は以下のとおりである。

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
・移動に関することや、目的地の地理を紹介することについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付ける。	・聞き取った友人の話を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現したりする。	・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとする。

さらに、これを評価規準として設定する。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
・移動に関することや、目的地の地理を紹介することについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。 ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付けている。	・聞き取った友人の話を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現したりしている。	・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとしている。	・自律的・自覚的な外国語学習。 ・学習言語の積極的使用。 ・中国語の学習を楽しもうとする態度。

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」については、語尾を「～ている」に書き換えている程度である^{iv}。大きく異なるのが、「学びに向かう力・人間性」である。ここは二つに分かれる。

二つの内左側は「主体的に学ぼうとする態度」である。「主体的に」どんなことをするのか。それは、この単元で学ぶ内容及び活動に関係する。各学校の実態に応じて、どれほどの

水準で「知識及び技能」を獲得し、どのような言語活動によって「思考力・判断力・表現力」をどの程度身に付けさせるのか、そして、その過程やどのように自分の既存の知識・能力のなかに調整するか（言い換えるならば、自分の中に落とし込むか）について書かれている。

右側にはさらに、「観点別状況評価や評定には示しきれない一人ひとりの生徒のよい点・可能性・進歩の状況」がある。この項目はこのプロジェクトでは重要なところであるが、ここでは触れず最後にもう一度詳細に説明する。

それでは、こうした規準を設定し、実際にはどのように成績に結び付けているのだろうか。

4 「評価の実際」

まず、以上のように振り分けた根拠を見たい。まず、「知識・技能」である。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる^v。

「ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題」とあり、また「実際に知識や技能を用いる場面を設ける」技能試験のようなものもこの対象となる。次に、「思考・判断・表現」である。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる^{vi}。

「ペーパーテスト」でも、内容によっては評価することが可能であるが、それよりも「論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現」が望ましい。これが「パフォーマンス課題」に相当すると考えられる。続いて、「学びに向かう人間性」である。

具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある^{vii}。

こうあるため、一つは「知識・技能」や「思考・判断・表現」と関連の深いものである必

要がある。したがって、「パフォーマンス課題」によって評価する。ただ、次のようにも指摘されているので注意を要する。

本観点に基づく評価としては、「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らし、① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる^{viii}。

以上の中でも、とくに「自らの学習を調整しようとする側面」がある。これは「振り返り」等を生徒に書かせ、それを評価することが考えられる。

なお、指導案に、「9. 研究授業の対象となる授業の指導案」において、項目として「具体的な評価規準」「評価方法」とあるのはこれに対応したものである。では、実際にどのように成績を付けているのか見たい。

5 「観点ごとの考え方」

まず、「知識・技能」である。研究授業の評価規準では、

- ・移動に関することや、目的地の地理を紹介することについて、語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。
- ・それらを聞いたり話したりする技能を身に付けている。

としている。「語彙、表現、文法、言語の働き」は、単語テスト、文法のテストなど一般的な「ペーパーテスト」によって評価することができる。「それらを聞いたり話したりする技能」については、発音のチェックやリスニングテストで評価できるが、今回はリスニングテストを含めたペーパーテストで評価した。点数に基づいて水準を定め、「A」～「C」段階に分けている。点数の割合をどのように分布するかについては、生徒の実態や学校の教務規定によって変えられる。

次に、「思考力・判断力・表現力等」である。研究授業の評価規準では、

- ・聞き取った友人の話を踏まえて、移動の方法を提案したり、自分の考え表現したりしている。

これは先にもあった通り、「ペーパーテスト」でも評価することは可能であるが、ここでは「パフォーマンス課題」によって評価している。評価する対象は二つある。一つは原稿の内容である。これによって、どのような意図（相手のことをどのように考えて表現している

か)か、どのような考えで書いているか、相手の状況についてどのように考えているか等、内容的な点を見ている。原稿には読み上げの本文以外にも、「考え方」を記入する欄を設けている。もう一つは、発表時の「ルーブリック」である。主に「発音」(発音の正確さ、声の大きさ)、姿勢(相手に言葉を届けるに十分な姿勢であるか)、言語の正確さ(正誤、適否、美醜等)を評価している。なお、ここについては「知識・技能」との違いについてなお一層の議論が求められるだろう。ちなみに、こうした評価規準はルーブリックによって生徒には先に伝達している。プリントの内容は「A」～「C」で評価する。また、ルーブリックは「A」「B」「C」なので、「A」は5、「B」は3、「C」は1に数値換算し、総括的評価ではその平均値を四捨五入して、もう一度「A」～「C」に振り分けている。先ほどと同じく、ここは生徒の実態や学校の教務規定によって変えられる。

最後に、「主体的に学ぼうとする態度」である。研究授業の評価規準では、

・東京・上野に行きたいと思う相手に対し、移動の方法や当地の魅力を調査し、相手に伝えるために、自分の考えを粘り強く中国語で表現しようとしている。

とする。「知識・技能」を獲得すること、「思考力・判断力・表現力等」を身に付ける過程でどのような態度であるのか見ている。ここでは二つの方法で評価をしている。一点目は、パフォーマンス課題の総体である。「思考力・判断力・表現力等」では個別の事象を扱っていたが、ここでは全体的なできのよさ、卑近な言葉を使えば頑張っているかどうかや感動できるかどうかなど、課題全体の成果を見て総合的につけている。

二点目は、生徒自身が自分の発表の映像を見直し、自分の評価をルーブリックでつけ、「振り返り」の文章を書くことである。自分の行ったパフォーマンス課題について、具体的かつ適切に振り返っているかどうか、この単元の内容にとどまらず、コミュニケーションや外国語学習にまで踏み込んで書かれているかどうか等を見て、「A」から「C」に分けている。先ほどまでと同じく、ここも状況に応じて変えられるだろう。

ちなみに、こうした評価は、基本的にB評価としている。課題にしっかりと取り組んでいれば「B」がつく。その中で、取り組みが大変よいもののみを「A」とする。「C」はこちらの支援が大変必要で、課題に取り組んではいるものの、なかなか指導に乗らない生徒である。

大きく分けると、ペーパーテスト、プリント、パフォーマンス課題、振り返りを材料として成績をつけていることがわかる。従来はこれを全て数値換算し、それをまとめて評定をつけていたが、その前段階として観点に分け、取り組む主体の生徒が成績を上げるためにはどこを具体的に頑張れば上がるのか考えやすくなっている。

6 「学びに向かう人間性」と「個人内評価」

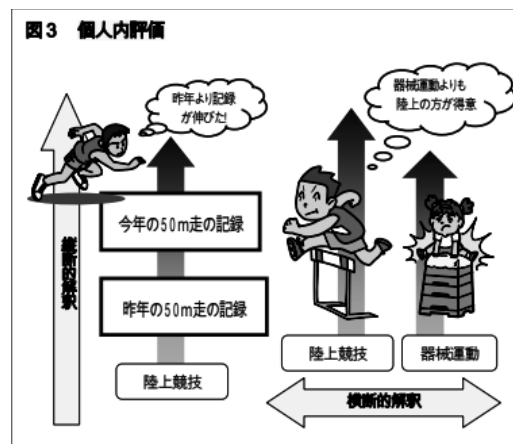
ここまで、成績に関する評価について述べたが、指導案の中には、「学びに向かう力・

人間性」があり、その中には「観点別状況評価や評定には示しきれない一人ひとりの生徒のよい点・可能性・進歩の状況」という項目がある。

これは、成績に直接関係する、総括的評価には含まれない、というよりも含まれない項目である。「学びに向かう力・人間性」について、『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』では、次のように指摘する。

『学びに向かう力・人間性』には①『主体的に学習に取り組む態度』として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取部分があることに留意する必要がある^{ix}。

ここでいう、「個人評価」とは「生徒一人ひとりの状態を他者と比較することではなく、個人のよさや可能性を評価すること（中略）個人内の差異に注目した横断的解釈と個人内の時系列的変化に着目した縦断的解釈」^xである。



「生徒一人ひとりの学習状況を他者と比較することなく評価する」「生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価する」「評定にはそぐわない」^{xi}という特徴がある。つまり、他の人と比較したり、授業者が設定した目標の達成度によって見るのではなく、上の図のように以前に比べればできているかどうか、個人の特性として別の種目・語種・内容よりもその単元ができているか、意識的に取り組んでいるか等を、コメントで書いたり、言葉がけしたりすることがこの個人内評価に入る。

他にも、観点として入れられないようなことがある。例えば、外国語学習によって多様性を認めるように考え方が変わったこと、中国語を学んだのだが自分が理解したことが英語にも応用できることに気付いたことなどである。

成績以外のことで、評価したいこと

- 外国語が好きだ！
 - 外国語を勉強して楽しい！
 - その国を好きになった！
 - 色々な価値観があることを知った！
 - その国の文化と日本文化のつながりに気付いた！
 - その国の文化と日本文化の違いに気付いた！ おもしろい！
 - ある外国語を通して別の言語の理解が深まった！
-

これらは学習の中では大切な要素であり、授業者としても生徒には持ってほしい考え方である。これについても、個人内評価の一つとしてみたいと考え、指導案に設定している。

例えば、国語や数学等の教科では指導要領上、その教科の特性に応じた、「見方・考え方」が設定されている。例えば、国語では「言葉による見方・考え方を働かせること」が求められている。これに相当する英語以外の外国語における、教科的な「見方・考え方」とはどんなものであろうか。それを検討するために、このプロジェクトでは指導案に外国語学習を通じてどのような考え方が持てるのか、一度言語化する欄を設けている。今回の指導案を例にすると、「自律的・自覚的な外国語学習」「学習言語の積極的使用」「中国語の学習を楽しもうとする態度」というものがこれに相当する。生徒がこうしたことに関連する内容を書いて、評定に加えることはできないが、積極的にコメントし、こうした考え方を促進させていきたいと考えている。

現在は個人内評価にひとまず置いてはいるが、ここは「英語以外の外国語」という教科・科目における、「見方・考え方」として整理することが最終的な目標である。そのために、あえて項目として作成しているのである。

「まとめ」

従来は教科書に基づいた試験を作成し、その結果に応じて評定を定めることが多かった。だが、教科書の内容を重視するコンテンツ重視の授業から、授業によってどのような力を付けるのかというコンピテンシーが重視される授業に、指導要領上は移行した。よって、以上のように、成績に関係すること及び、関係しないことも含め、今回の研究授業ではどのように授業者として取り組んでいるのかを評価の面から見た。今後、「英語以外の外国語」についても、指導要領が作成されることが待たれる。

ⁱ KoALA「教育評価の基礎講座」第5回「2019年改訂指導要録のポイント」より。

ⁱⁱ 森住衛ら編『外国語教育は英語だけでいいのか』（くろしお出版、2016年）、『第2の外国語』学習指導要領（案）の中国語部分を参照した。

-
- iii 文部科学省「単元計画の作成」2011年。
 - iv 目標の設定、評価規準の設定については、国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（令和3年8月）の各教科のものを参考にした。
 - v 成績の付け方、観点のあり方については、中央教育審議会・初等中等教育分科会・教育課程部会、『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』（平成31年1月21日）に詳しい。pp.7-8より。
 - vi 上記 pp.8-9。
 - vii 上記 p13。
 - viii 上記 p11。
 - ix 上記 p9。
 - x 神奈川県「学習評価の基本的な考え方」（平成15年）より。
 - xi 同じく上記資料より。

第2回ワークショップ資料 (5)

横浜市立みなと総合高等学校 ドイツ語の取り組み

授業名:ドイツ語

横浜市立みなと総合高等学校
ドイツ語担当:池谷 尚美

みなと総合高等学校について 学校の特徴

- 平成13(2001)年設立、単位制総合学科高校。
- 幅広い選択科目がある。
- 国際交流、キャリア教育に力を入れている。
- 中国語・フランス語・ハンガール・手話が履修可能。
- カナダ・バンクーバー市の学校と、中国・上海市の学校と姉妹校提携を結んでいる。
- その他、短期・長期で様々な国からの留学生を受け入れている。



カナダの姉妹校:ブリタニア・セカンダリー・スクール(バンクーバー市)
上海の姉妹校:上海市工商外国語学校

画像、情報共にみなと総合高等学校
HPより

ドイツ語授業について

- 通年科目 週1回50分×2(2単位相当)
- 2年生または3年生のみ履修可能。
- 2021年度は8名履修。(2年6名、3年2名)
- 生徒の履修理由はさまざま。(多言語学習がしたい、世界史や心理学が好き、国際交流がしたい、など)
- 使用教科書『プリマ・プラス』(朝日出版社)

(テキストについて)

ドイツで高校生向けに出版されたテキストがベース。
日本の学習者向けに、日本語で課題の指示や文法の解説が書かれている。
パフォーマンス課題やプロジェクト活動も組み込まれている。



画像:朝日出版社

年間目標

○ドイツ語圏の同世代の生徒や、身近にいる同世代の生徒と交流することを想定し、ドイツ語やドイツ語圏の文化に関心を深め、相手の文化と自分の文化をお互いに紹介するような活動を通じ、自己紹介・趣味・自分の一日について話題にし、自ら発信することができる。

知識・技能

○ドイツ語の音声、語彙、文法、言語の働き等を母語や既習言語の知識を援用しながら理解する。

思考力・判断力・表現力

○相手と自分の関係や、相手の文化的な背景に配慮しつつ、コミュニケーションを円滑に進めるために、4技能のスキルを場面に応じて適切に運用することができる。

○相手の考えを理解し、自分の考えを様々な手段（文字テキスト、ジェスチャー、写真、動画等）を使いながら伝えることができる。

学びに向かう力・人間性

○相手と積極的に関係を構築するために、自ら発信し、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。

○ドイツ語圏の文化を、他文化や自文化と比較しながら理解を深めることと同時に、自文化や固定観念についても内省することができる。

年間指導計画

時期	単元名	パフォーマンス課題	備考
4月・5月	挨拶・自己紹介	自分の名前や住んでいる所を話そう	挨拶、出身、住んでいる所
6月・7月	好き(好きではない)教科、スポーツ等	自分の好き/嫌いな教科や趣味について話そう	趣味について
9月・10月	ペット・持ち物	自分の持ち物やペットについて話そう	「~を持っている」の表現
10月・11月・12月	自分の1日や一週間、ドイツの学校の時間割・ドイツ以外の国の時間割	自分(ドイツやフランス、中国)の1日・1週間を相手に伝えよう	時間、曜日、「~時に~をする」の表現
1月・2月	週末の予定、得意なことを話そう	待ち合わせ・出来ることを話そう	待ち合わせ、「~できる」という表現

研究授業の単元の概要

- ・単元名：自分の1日・1週間
 - ・期間：10月後半～12月
 - ・時間数：15次
- (この期間はほぼ45分授業)

単元の目標（資質・能力の3つの柱）

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・数字の表し方 ・時間や曜日の言い方（～時に/～曜日に～をする） ・一日の流れについての言い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と同年代の、様々な国の生徒たちの学校生活について想像する力。 ・目的に応じて必要な情報を収集し、表現する内容を判断する能力。 ・既習事項やビジュアルエイドを活用しながら、伝えたい事柄を工夫して構成・表現する能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的・主体的に外国語を用いて、相手に伝えようとする態度。 ・ドイツ語圏や、他の文化圏の学校生活について理解し、相手の文化背景を考慮しながら、情報や考えを伝えようとする態度。 ・目標言語の学習を通じて、積極的に周囲の人を尊重しながら関わり、相互理解を深めようとする態度

パフォーマンス課題の内容

- ドイツ語圏の同世代の生徒や同世代の身近な生徒と交流することを想定し、自分たちの一日や一週間について話し、日本・ドイツ以外の同年代の生徒（フランスと中国を想定）の学校生活を語ろう！
- 中国やフランスでの学校生活について、中国語学習者やフランス語学習者から情報を得て、ドイツ語で報告してみよう！

研究授業の内容・パフォーマンス課題

- パフォーマンス課題の前に、「自分の1日・1週間」を発表している。
- 研究授業ではビデオ作成をする回。
- キーワードはフリップを作成し、それを見せて話す。
- 動画はスマートフォンを使い、生徒同士で撮影。
- 撮影した動画はGoogle Classroomで共有。
- クラスを2グループに分け、それぞれ中国語クラス、フランス語クラスと交流。それぞれの学校事情をお互いに尋ねたり教えたりした。
- クラス内評価は、Google Classroomで配信した動画を見て、グループごとにルーブリックを用いて評価。

指導と評価の計画(単元案):単元の指導と評価の展開

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1 2	時間の言い方と曜日の言い方を学ぶ	【知識・技能】 「〇時」「〇時半」など、何かの活動をする時間を聞き取ったり、相手に伝える知識を身につけている	ペーパーテスト
3 4	1日や1週間の生活についてのテキストを読む	【知識・技能】 1日や1週間の活動について、相手と話している内容を聞きとったり、自分の1日や1週間の活動を伝える知識や技能を身につけている	ペーパーテスト
5 6	ドイツ語圏の高校の時間割を見て、自分の時間割と比べる	【思考力・判断力・表現力等】 自分と同世代の他の国に暮らす生徒たちの学校生活について想像する力を身につけている	話合いの様子

指導と評価の計画(単元案):単元の指導と評価の展開

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
7 8	1日や1週間の生活について、お互いに尋ね合う	【知識・技能】 1日や1週間の活動を相手に尋ねたり、答える知識を身につけている 【思考力・判断力・表現力】 伝えたい事柄を工夫して構成・表現する技能を身につけている	話合いの様子 発表原稿の提出
9 10	自分の1日や1週間について、フリップを使いながらビデオ作成して伝える	【学びに向かう力・人間性の涵養】 ・自律的・主体的に外国語を用いて相手に伝えようとする態度を身につけている ・周囲の人を尊重しながら積極的に関わり、相互理解を深めようとする態度を身につけている	作業の様子 ビデオ撮影した内容について、ルーブリックを使った自己評価

指導と評価の計画(単元案):単元の指導と評価の展開

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
11 12	中国・フランスの学校の時間割を読み、日本の学校生活の違いを比較する	【思考力・判断力・表現力】 ・自分と同世代の様々な国の生徒たちの学校生活について想像する力が身についている ・目的に応じて必要な情報を収集し、表現する内容を判断する技能が身についている	話し合いの様子 発表原稿の提出
13 14	中国・フランスの学校の時間割や、日本との学校生活の違いを、フリップを使い、ビデオで伝える	【思考力・判断力・表現力】 ・ビジュアルエイドを活用し、伝えたい事柄を工夫して構成・表現する技能が身についている 【学びに向かう力・人間性の涵養】 ・自律的・主体的に外国語を用いて、相手に伝えようとする態度が身についている。 ・他の文化圏の学校生活について理解し、情報や考えを伝えようとする態度が身についている	ビデオの内容 作業の様子
15	相手チームの発表を評価する。	【学びに向かう力・人間性の涵養】 ・目標言語の学習を通じて、積極的に周囲の人を尊重しながら関わり、相互理解を深めようとする態度が身についている	ルーブリックを使った相互評価

ルーブリック

評価 (Evaluation)	努力しよう☆ ausreichend	あと少し頑張ろう☆☆ befriedigend	目標達成☆☆☆ gut	目標以上を達成☆☆☆☆ sehr gut
内容に適した語彙・文法	内容に適した単語や言葉が選択されていないので、内容が全く伝わらない。	型や語彙が選択されている。	内容に応じて適切な単語を選び、適切な単語や文型の選択ができています。	内容に応じて多様な表現を使い、適切な単語や文型を多く使用している。
音声(声の大きさ、発音の明瞭さ)	発音が不明瞭または声が小さいために、ほとんど聞き取れない。	明瞭さまたは声の大きさが足りずに聞き取れない部分がある。	時々不明瞭な所はあるが、大体内容が聞き取れる声の大きさとゆっくりと話している。	十分な声の大きさと、はっきりゆっくりに話している。
発表態度	発表メモばかり見て、全く聞き手のほうに意識が向いていない。	発表メモを見ることが多く、聞き手は時々しか見ていない。	発表メモを見ることがあるが、聞き手に視線を向け、語りかける姿勢や視線で話している。	発表メモにあまり頼らず、聞き手を絶えず意識した姿勢や視線で、聞き手に反応しながら話す。
異文化への意識	日本との違いについて、まったく意識されていない。	日本との違いについて、多少意識されている。	日本との違いについて、大いに意識されている。	日本との違いについて、しっかり意識され、独自の考察もある。
協働作業(自分のチームについて)	役割分担ができておらず、負担が偏っている。	役割分担はされたが、結果的に負担が偏った。	役割分担も適切で、個人がそれぞれの役割を果たした。	チームの連携がとれて、お互い助け合いながら実施できた。
その他コメント				

終わりに 生徒のアンケートから

- (知識・技能)
- 「英語とスペルが似ているけれど発音が全然違う」
- 「日本語の文をいかに簡易にできるかが文章作りで大切」
- 「習った単語プラス自分で調べてしっかり文になるようにした」

終わりに 生徒のアンケートから

- (思考力・判断力・表現力)
- 「日本・ドイツ・中国と比べて、うらやましいと思うことや、大変そうと思うことに注目した」
- 「毎回フリップの配置やイラストにはこだわった」
- 「カメラで撮ったことで、自分のどこが改善点か確認できた」

終わりに 生徒のアンケートから

- (学びに向かう力・人間性)
- 「分からないところは恥ずかしがらずに聞いて吸収することができた」
- 「日本とは立地が異なり、他の文化の影響をすごく受けていると思った」
- 「皆で協力し合えて楽しかった」

発表は以上です!

•ご清聴ありがとうございました。

